

# 総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価の在り方 (二年次)

## — 小学校、中学校における「単元改善シート」の活用を通して —

### 【研究者】

企画部 指導主事 福田 陽子・白井 良枝・西村 靖子

### 【研究指導者】

広島大学大学院教育学研究科 教授 朝倉 淳

### 【研究協力校】

東広島市立吉川小学校 府中町立府中中央小学校 三次市立三和小学校  
尾道市立美木中学校 三次市立三和中学校

### 研究の要約

本研究は、総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価の在り方を明らかにすることを目的とする研究の二年次である。一年次は、広島県公立小学校、中学校を対象にした探究的な学習の指導と評価に係る実態調査の分析を通して課題を明らかにするとともに、その改善策を提案し、探究的な学習における指導の工夫や評価の在り方を提示した「単元改善シート」を作成した。

二年次である今年度は、県内の研究協力校（小学校3校、中学校2校）における総合的な学習の時間の指導と評価について「単元改善シート」の項目「1 探究的な学習における状況」「2 探究的な学習について」「3 評価について」に沿って課題を明確にし、授業実践を行うことにより、探究的な学習における指導の工夫や評価の改善を行うことができた。このことから、「単元改善シート」は、総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価の改善を図ることに有効であることが分かった。

**キーワード：総合的な学習の時間 「単元改善シート」 指導と評価 実践事例**

### 目次

一年次の研究の概要	1
I 研究の目的と方法	1
II 総合的な学習の時間における探究的な学習	4
III 総合的な学習の時間の評価	4
IV 「単元改善シート」の活用に関する分析と考察	5
V 研究のまとめ	19
おわりに	19
資料	21

### 一年次の研究の概要

一年次の研究では、県内の小学校434校、中学校196校に実施した実態調査の分析を通して探究的な学習の指導と評価についての課題を明らかにし、それらの課題の改善策として図1・2「単元改善シート」を提案した。

「単元改善シート」は、実態調査の基本構成に基づき、次の3項目について示している。

- 1 探究的な学習における状況
- 2 探究的な学習の指導について
- 3 評価について

この3項目について、各学校における取組が総合

的な学習の時間の趣旨やねらいに沿った探究的な学習の指導や評価がなされているかどうかについての確認を行った上で改善を図ることとした。

### I 研究の目的と方法

#### 1 研究の目的

平成26年11月20日中央教育審議会（諮問）では、課題発見と解決に向けて児童生徒が主体的・協働的に学ぶ学習である「アクティブ・ラーニング」やそのための指導方法等の充実の重要性が述べられている。本県においても平成26年12月「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、その中で「課題発見・解決学習」を推進している。そのため児童生徒が主体的・協働的に学習を行う総合的な学習の時間の充実をより一層図ることが重要となっており、本研究における「単元改善シート」の活用は各学校における探究的な学習の指導と評価における課題を明確にし、その課題解決に資するものと考えられる。

具体的には、県内の研究協力校（小学校3校、中学校2校）において「単元改善シート」を活用し、各学校における探究的な学習の指導と評価における課題の明確化と改善を図ることを目的とする。

小学校 単元改善シート 学習課題 (例)「地域や学校の特色に応じた課題」

探究的な学習における状況		改善のポイント															
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の実態把握について、確認しましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 年間指導計画の確認及び前学年の担任からの聞き取りによりこれまでの学習内容を把握する。</li> <li>□ ウェビングやアンケート調査等により、児童の興味・関心、学習スキルについて把握する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画が、児童の実態に応じて作成されているか確認しましょう。</li> </ul>															
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間指導計画、単元計画、評価計画等について、確認しましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 【単元名】(例)「つなげよう!! 広げよう!! 私たちの〇〇」</li> <li>□ 【単元目標】(例) 地域の特色やよさにふれ、地域への愛着や誇り、将来への夢を育む。</li> <li>□ 【各学校で定める育てようとする資質や能力及び態度】(例)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題設定力」日常生活や社会における事象から、自分で取り組むべき課題を見付ける。</li> <li>・「問題解決力」情報収集した事柄を整理・分析し、まとめ・表現する力。</li> <li>・「コミュニケーション力」他者と協力しながら主体的に取り組む態度。</li> <li>・「自己の生き方」自分でできることや学ぶことについて考え、自分の生き方につなげる力。</li> </ul> </li> <li>□ 【各学校で定める評価の観点、評価規準、評価方法】(例)                             <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>評価の観点</td> <td>課題設定力</td> <td>問題解決力</td> <td>コミュニケーション力</td> <td>自己の生き方</td> </tr> <tr> <td>評価規準</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価方法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </li> </ul> </li> <li>□ 【年間指導計画における教科の内容と学習スキルの関連】(例)・国語(内容)目的に応じて情報を選択し、文章構成を考え、新聞づくりを行う。(学習スキル)カードを用いて情報を収集し、KJ法的な手法を用いて、集めた情報を分類する。</li> <li>□ 【教材についての共通理解】ウェビング等を活用し、教材の広がりや対象、学習活動、教科との関連(内容及び学習スキル)について、確認する。</li> </ul>	評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方	評価規準					評価方法					<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を通して、育てようとする資質や能力及び態度について定め、確認しましょう。</li> <li>・児童の目指す姿を想定し、いつ、どのような方法で評価するか確認し、共有しましょう(GTや保護者とも共有)。</li> <li>・教科で学ぶ内容と学習スキルについて関連させましょう。</li> <li>・思考ツールを活用し、教材について共通理解を図りましょう。</li> </ul>
評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方													
評価規準																	
評価方法																	
探究的な学習の指導について		改善のポイント															
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の実態に応じた手立てを工夫しましょう。(例)                     <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; background-color: yellow;">□ 児童が学習内容についての知識をもっていない場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 複数の体験活動を通して、多くの情報を収集し、体験を比較させて考えさせる。</li> <li>② ウェビングを活用 <u>個人⇒グループ</u> 個人で収集した情報を取り出す。共有。</li> <li>③ KJ法的な手法を活用 <u>グループ</u> 情報を分類整理し、情報を把握する。</li> <li>④ 問題の序列化を行う。個人又はグループ理由付けをしながら課題を設定する。</li> </ol> </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; background-color: yellow;">□ 児童が学習内容についての知識をもっている場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。</li> <li>② グラフなどの統計や写真等を提示し、児童の認知基準とのずれを生かす。</li> <li>③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。</li> <li>④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。</li> </ol> </div> </div> </li> </ul>	<p>評価について</p> <p>◎評価の観点 ○評価規準 ☆評価方法</p> <p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <p>□行動観察</p> <p>□制作物(例:ウェビングやKJ法的なワークシート)</p> <p>□ポートフォリオ</p> <p>□自己評価(例:振り返りカード)</p> <p>□相互評価</p> <p>□他者評価(例:外部講師、保護者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じて、多様な思考ツールを活用し、課題を設定できるような手立てを工夫しましょう。</li> </ul>														
情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題や目的に応じて、相手意識をもって、多様な情報収集の方法を選択しましょう。(例)                     <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center;"> <p>□アンケート □フリップボード □インタビュー □手紙 □電話</p> <p>□メール □図書資料 □インターネット □実験・観察</p> </div> <p>「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)」P. 24~30 参照</p> </li> </ul>	<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <p>□行動観察</p> <p>□制作物(例:ペン図、座標軸の入ったワークシート)</p> <p>□ポートフォリオ</p> <p>□自己評価(例:振り返りカード)</p> <p>□相互評価</p> <p>□他者評価(例:外部講師、保護者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の図書館や各官庁、各県市町の施設を積極的に活用しましょう。</li> <li>・ICTを効果的に活用し、遠隔地からの情報収集も工夫しましょう。</li> </ul>														
整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的に応じた方法を選択し、比較・分類・序列化・関連付けなど手立てを考えましょう。(例)                     <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">□ ベン図(共通点、相違点)</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">□ 座標軸の入ったワークシート</div> </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>□カード □グラフ □マップ □図 □メリット・デメリット □ビフォー・アフター</p> </div> </li> </ul>	<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <p>□行動観察</p> <p>□制作物(例:ペン図、座標軸の入ったワークシート)</p> <p>□ポートフォリオ</p> <p>□自己評価(例:振り返りカード)</p> <p>□相互評価</p> <p>□他者評価(例:外部講師、保護者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じ、思考に沿った思考ツールを組み合わせ活用しましょう。</li> </ul>														
まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相手意識や目的意識を明確にし、より効果的な方法でまとめ・表現する方法を考えましょう。(例)                     <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">□振り返りカード</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">□自己評価カード</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">□新聞 □レポート □報告会</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">□パンフレット □ポスター □プレゼンテーション</div> </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>□パネルディスカッション □シンポジウム</p> </div> <p>「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)」P.38~44 参照</p> </li> </ul>	<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <p>□行動観察</p> <p>□制作物</p> <p>□ポートフォリオ</p> <p>□自己評価(例:振り返りカード)</p> <p>□相互評価</p> <p>□他者評価(例:外部講師、保護者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容や学習スキルなど教科との関連を生かし、相手や目的に応じて、多様な表現方法を指導しましょう。</li> </ul>														

図1 「単元改善シート」(小学校)

中学校 単元改善シート 学習課題 (例)「職業や自己の将来にかかわる課題」

探究的な学習における状況		改善のポイント																								
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の実態把握について、確認しましょう。</li> <li>□ 小学校における学習(キャリア教育関連)について、年間計画や聞き取りにより学習内容を把握する。</li> <li>□ 中学校の年間指導計画の確認及び前学年の担任からの聞き取りによりこれまでの学習内容を把握する。</li> <li>□ ウェビングやアンケート調査等により、生徒の興味・関心、学習スキルについて把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画が、生徒の実態に応じて作成されているか確認しましょう。</li> </ul>																								
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間指導計画、単元計画、評価計画等について、確認しましょう。</li> <li>□ 【単元名】(例)第1学年「仕事について考えよう」第2・3学年「自分の将来について考えよう」</li> <li>□ 【単元目標】(例)職場体験を通して、職業や自分に対する理解を深め、自己の将来の生き方を考える。</li> <li>□ 【各学校で定める育てようとする資質や能力及び態度】 (例)・「課題設定力」日常生活や社会における事象から、自分で取り組むべき課題を見付ける。 ・「問題解決力」情報収集した事柄を整理・分析し、まとめ・表現する力。 ・「コミュニケーション力」他者と協力しながら主体的に取り組む態度。 ・「自己の生き方」自分にできることや学ぶことについて考え、自分の生き方につなげる力。</li> <li>□ 【各学校で定める評価の観点、評価規準、評価方法】 (例) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>評価の観点</td> <td>課題設定力</td> <td>問題解決力</td> <td>コミュニケーション力</td> <td>自己の生き方</td> </tr> <tr> <td>評価規準</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価の方法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </li> <li>□ 【年間指導計画における教科の内容と学習スキルの関連】 (例)・国語(内容)日常生活や社会生活から課題を決め、材料を集め分類・整理し、構成を工夫し、考えをまとめる。(学習スキル)カードを用いて、情報を収集する。KJ法的な手法を用いて、集めた情報を分類する。</li> <li>□ 【教材についての共通理解】 ウェビング等を活用し、教材の広がりや対象、学習活動、教科との関連(内容及び学習スキル)について、確認する。</li> </ul>	評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方	評価規準					評価の方法					<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を通して、育てようとする資質や能力及び態度について定め、確認しましょう。</li> <li>・生徒の目指す姿を想定し、いつ、どのような方法で評価するか確認し、共有しましょう(GTや保護者とも共有)。</li> <li>・教科で学ぶ内容と学習スキルについて関連させましょう。</li> <li>・思考ツールを活用し、教材について共通理解を図りましょう。</li> </ul>									
評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方																						
評価規準																										
評価の方法																										
探究的な学習の指導について		評価について ◎評価の観点 ○評価規準 ☆評価方法																								
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の実態に応じた手立てを工夫しましょう。</li> <li>(例) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっていない場合</li> <li>① SWOT分析を通して、自分の強みや弱みを自覚し、良いところや改善が必要なことを考える。</li> <li>② フレインライティングを通して、他者から見た自分の良さについて自覚する。</li> <li>③ 身近な人からの聞き取りや仕事調べなど調査活動を行う。</li> <li>④ KJ法的な手法を活用し、情報を分類・整理し、情報の共有化を図り、課題を設定する。[グループ(協同学習)]</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっている場合</li> <li>① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し脳躍する。</li> <li>② グラフなどの統計や写真等を提示し、生徒の脳知基準とのずれを生かす。</li> <li>③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、脳躍との違いについて確かめる。</li> <li>④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。</li> </ul> </td> </tr> </table> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっていない場合</li> <li>① SWOT分析を通して、自分の強みや弱みを自覚し、良いところや改善が必要なことを考える。</li> <li>② フレインライティングを通して、他者から見た自分の良さについて自覚する。</li> <li>③ 身近な人からの聞き取りや仕事調べなど調査活動を行う。</li> <li>④ KJ法的な手法を活用し、情報を分類・整理し、情報の共有化を図り、課題を設定する。[グループ(協同学習)]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっている場合</li> <li>① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し脳躍する。</li> <li>② グラフなどの統計や写真等を提示し、生徒の脳知基準とのずれを生かす。</li> <li>③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、脳躍との違いについて確かめる。</li> <li>④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎評価の観点 ( )</li> <li>○評価規準 ( )</li> <li>☆評価方法 ( )</li> <li>□行動観察</li> <li>□制作物(例:ウェビングやKJ法的なワークシート)</li> <li>□ポートフォリオ</li> <li>□自己評価(例:振り返りカード)</li> <li>□相互評価</li> <li>□他者評価(例:外部講師、保護者等)</li> </ul>																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっていない場合</li> <li>① SWOT分析を通して、自分の強みや弱みを自覚し、良いところや改善が必要なことを考える。</li> <li>② フレインライティングを通して、他者から見た自分の良さについて自覚する。</li> <li>③ 身近な人からの聞き取りや仕事調べなど調査活動を行う。</li> <li>④ KJ法的な手法を活用し、情報を分類・整理し、情報の共有化を図り、課題を設定する。[グループ(協同学習)]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっている場合</li> <li>① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し脳躍する。</li> <li>② グラフなどの統計や写真等を提示し、生徒の脳知基準とのずれを生かす。</li> <li>③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、脳躍との違いについて確かめる。</li> <li>④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。</li> </ul>																									
情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題や目的に応じて、相手意識をもって、多様な情報収集の方法を選択しましょう。</li> <li>(例) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>□アンケート</td> <td>□フリップボード</td> <td>□インタビュー</td> <td>□手紙</td> <td>□電話</td> </tr> <tr> <td>□メール</td> <td>□図書資料</td> <td>□インターネット</td> <td>□実験・観察</td> <td></td> </tr> </table> </li> <li>「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)P. 24~30参照」</li> </ul>	□アンケート	□フリップボード	□インタビュー	□手紙	□電話	□メール	□図書資料	□インターネット	□実験・観察		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎評価の観点 ( )</li> <li>○評価規準 ( )</li> <li>☆評価方法 ( )</li> <li>□行動観察</li> <li>□制作物</li> <li>□ポートフォリオ</li> <li>□自己評価(例:振り返りカード)</li> <li>□相互評価</li> <li>□他者評価(例:外部講師、保護者等)</li> </ul>														
□アンケート	□フリップボード	□インタビュー	□手紙	□電話																						
□メール	□図書資料	□インターネット	□実験・観察																							
整理分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的に応じた方法を選択し、比較・分類・序列化・関連付けなど手立てを考えましょう。</li> <li>(例) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ ビフォー・アフター</li> <li>学習前の自分と、体験活動や調査活動を通して情報を収集した後の自分について比較することにより、自己の成長を自覚させる。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>ビフォー</td> <td>アフター</td> </tr> <tr> <td>仕事への考え</td> <td>仕事への考え</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>自己の適性</td> <td>自己の適性</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ メリット・デメリット</li> <li>自分の将来について、多様な情報や自己の適性を基に比較しながら考えを深める。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2">○○○○</td> </tr> <tr> <td>メリット</td> <td>デメリット</td> </tr> <tr> <td>仕事の特性○○○</td> <td>仕事の特性○○○</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>自己の適性○○○</td> <td>自己の適性○○○</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> </table> </td> </tr> </table> </li> <li>□カード □グラフ □マップ □図 □ペン図 □座標軸の入ったワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ビフォー・アフター</li> <li>学習前の自分と、体験活動や調査活動を通して情報を収集した後の自分について比較することにより、自己の成長を自覚させる。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>ビフォー</td> <td>アフター</td> </tr> <tr> <td>仕事への考え</td> <td>仕事への考え</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>自己の適性</td> <td>自己の適性</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> </table>	ビフォー	アフター	仕事への考え	仕事への考え	○○○○	○○○○	自己の適性	自己の適性	○○○○	○○○○	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ メリット・デメリット</li> <li>自分の将来について、多様な情報や自己の適性を基に比較しながら考えを深める。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2">○○○○</td> </tr> <tr> <td>メリット</td> <td>デメリット</td> </tr> <tr> <td>仕事の特性○○○</td> <td>仕事の特性○○○</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>自己の適性○○○</td> <td>自己の適性○○○</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> </table>	○○○○		メリット	デメリット	仕事の特性○○○	仕事の特性○○○	○○○○	○○○○	自己の適性○○○	自己の適性○○○	○○○○	○○○○	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎評価の観点 ( )</li> <li>○評価規準 ( )</li> <li>☆評価方法 ( )</li> <li>□行動観察</li> <li>□制作物(例:ビフォー・アフター、メリット・デメリットの入ったワークシート)</li> <li>□ポートフォリオ</li> <li>□自己評価(例:振り返りカード)</li> <li>□相互評価</li> <li>□他者評価(例:外部講師、保護者等)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ビフォー・アフター</li> <li>学習前の自分と、体験活動や調査活動を通して情報を収集した後の自分について比較することにより、自己の成長を自覚させる。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>ビフォー</td> <td>アフター</td> </tr> <tr> <td>仕事への考え</td> <td>仕事への考え</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>自己の適性</td> <td>自己の適性</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> </table>	ビフォー	アフター	仕事への考え	仕事への考え	○○○○	○○○○	自己の適性	自己の適性	○○○○	○○○○	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ メリット・デメリット</li> <li>自分の将来について、多様な情報や自己の適性を基に比較しながら考えを深める。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2">○○○○</td> </tr> <tr> <td>メリット</td> <td>デメリット</td> </tr> <tr> <td>仕事の特性○○○</td> <td>仕事の特性○○○</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>自己の適性○○○</td> <td>自己の適性○○○</td> </tr> <tr> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> </table>	○○○○		メリット	デメリット	仕事の特性○○○	仕事の特性○○○	○○○○	○○○○	自己の適性○○○	自己の適性○○○	○○○○	○○○○			
ビフォー	アフター																									
仕事への考え	仕事への考え																									
○○○○	○○○○																									
自己の適性	自己の適性																									
○○○○	○○○○																									
○○○○																										
メリット	デメリット																									
仕事の特性○○○	仕事の特性○○○																									
○○○○	○○○○																									
自己の適性○○○	自己の適性○○○																									
○○○○	○○○○																									
振り返り・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相手意識や目的意識を明確にし、より効果的な方法でまとめ・表現する方法を考えましょう。</li> <li>(例) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>□振り返りカード</td> <td>□自己評価カード</td> <td>□新聞</td> <td>□レポート</td> <td>□報告会</td> <td>□プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>□パンフレット</td> <td>□ポスター</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>□パネルディスカッション</td> <td>□シンポジウム</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </li> <li>「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)P. 39~44参照」</li> </ul>	□振り返りカード	□自己評価カード	□新聞	□レポート	□報告会	□プレゼンテーション			□パンフレット	□ポスター					□パネルディスカッション	□シンポジウム			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎評価の観点 ( )</li> <li>○評価規準 ( )</li> <li>☆評価方法 ( )</li> <li>□行動観察</li> <li>□制作物</li> <li>□ポートフォリオ</li> <li>□自己評価(例:振り返りカード)</li> <li>□相互評価</li> <li>□他者評価(例:外部講師、保護者等)</li> </ul>						
□振り返りカード	□自己評価カード	□新聞	□レポート	□報告会	□プレゼンテーション																					
		□パンフレット	□ポスター																							
		□パネルディスカッション	□シンポジウム																							

図2 「単元改善シート」(中学校)

## 2 研究の内容と方法

研究協力校における「単元改善シート」の具体的な活用方法や改善の具体例を提示することにより、県内外の小学校、中学校の総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価の改善へとつなげる。

研究協力校に一年次の研究で作成した「単元改善シート」を提示し、「単元改善シート」を活用することで、各校における探究的な学習の指導と評価に関する課題を明らかにする。その後、授業実践を行うことにより改善を図る。

検証については、表1に示す。

授業実践後、「単元改善シート」の活用状況について教職員アンケートを実施し、分析・考察を行う。また、探究的な学習の指導と評価の改善については、授業観察及び児童生徒のワークシートから分析・考察を行う。

これらの分析・考察により課題を明確にし、「単元改善シート」の改訂を行う。

表1 検証の視点と方法

検証の視点	方法
「単元改善シート」の活用によって探究的な学習の指導と評価を改善することができたか。	教職員を対象にしたアンケート 授業の観察とその考察 児童生徒のワークシートの分析

## 3 研究計画

本研究の計画及び経過について、表2に示す。

表2 研究の計画及び経過

研究内容	期間
○ 研究計画書の作成	4月
○ 研究協力校における実践とその分析・考察	5月～1月
○ アンケートの分析・考察	11月～1月
○ 研究報告書の作成	12月～3月

## II 総合的な学習の時間における探究的な学習

小学校、中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成20年、以下「解説」とする。）では、総合的な学習の時間における探究的な学習とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく図3に示したような一連の学習活動のことである。児童生徒は、「①日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け、②そこにある具体的な問題について情報を収集し、

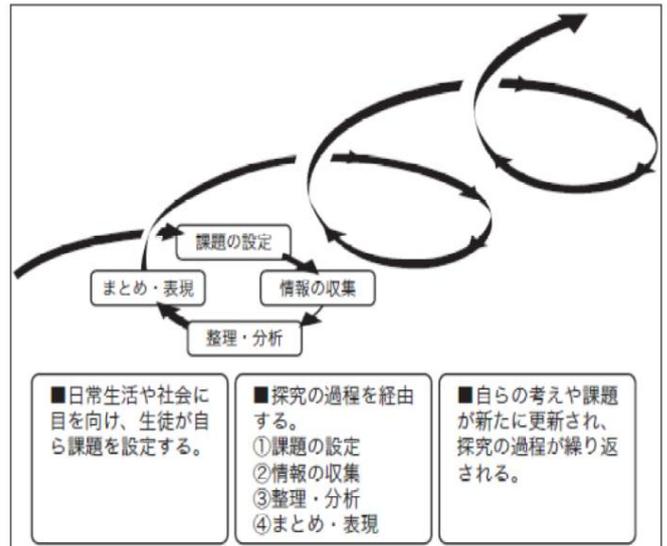


図3 探究的な学習の過程

③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、さらなる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく。」<sup>1)</sup>と示されている。

本研究では、総合的な学習の時間における探究的な学習の過程である①「課題の設定」②「情報の収集」③「整理・分析」④「まとめ・表現」の四つの過程による学習を探究的な学習とする。

## III 総合的な学習の時間の評価

### 1 評価の基本的な考え方

平成22年3月中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（以下報告という。）において、具体的な評価の在り方については、「各学校が自ら設定した目標や内容を踏まえて観点を設定し、それ即して文章の記述による評価を行っており、新しい学習指導要領下でも現在の評価の在り方を維持することが適当である」<sup>2)</sup>とし、総合的な学習の時間評価においては、引き続き、各教科の学習の評価と同様、観点別学習状況の評価を基本とすることとしている。

平成22年5月の初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」では、「総合的な学習の時間の記録については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒

にどのような力が身に付いたかを文章で記述する」<sup>3)</sup>としている。

また、評価規準について「報告」では、「各学校において具体的な学習状況を想定した評価規準を設定することは、各教科と同様、総合的な学習の時間についても児童生徒がどのような学習状況にあるかを適切に把握し、学習活動を改善するために重要である」<sup>4)</sup>としている。

以上のことから、総合的な学習の時間では、各学校において目標や内容を定めることから、その目標や内容に従って評価の観点の適切に定めることが大切であると言える。その上で、どのような力が身に付いたのかを適切に把握するために、児童生徒の学習の姿を基にした評価規準を設定することが求められていると考えられる。

## 2 評価の方法

「解説」では、総合的な学習の時間における児童生徒の具体的な学習状況の評価の方法については、まず、信頼される評価とするために、教師の適切な判断に基づいた評価が必要であり、著しく異なったり偏ったりすることなく、およそどの教師も同じように判断できる評価の観点や評価規準を確認し、これらに基づいて児童生徒の学習状況の評価する等が述べられている。この場合には、各学校において定められた評価の観点を、1単位時間ですべて評価しようとするのではなく、一定程度の単位時間の中において評価を行うように心がける必要がある。次に、多様な評価とするためには、異なる評価方法や異なる評価者による多様な評価を適切に組み合わせることが重要である。

さらに、学習状況の結果だけではなく過程を評価するためには、評価を学習活動の終末だけではなく、事前や途中で適切に位置付けて実施することが大切である。多様な評価方法が、学習活動前の児童生徒の実態の把握、学習活動中の児童生徒の学習状況の把握と指導の改善、学習活動終末の児童生徒の学習状況の把握と指導の改善という、各過程に計画的に位置付けられることが重要である。すべての過程を通して、児童生徒の実態や学習状況を把握し、適切な指導に役立てることが大切である。

なお、総合的な学習の時間では、児童生徒一人一人の中に個人としてはぐくまれているよい点や進歩の状況等を積極的に評価することや、それを通して児童生徒自身も自分のよい点や進歩の状況等に気付くようにすることも大切である、と述べられている。

## IV 「単元改善シート」の活用に関する分析と考察

### 1 「単元改善シート」の活用状況

「単元改善シート」の項目に対応した表3のアンケート項目において、教職員が「単元改善シート」を活用した後、どれくらい参考になったかの割合を4段階評定尺度法において表したものを図4に、記述内容を表4に示す。

表3 アンケート項目

項目		内容	
1	実態把握	①	これまでの学習内容を把握する項目において
		②	児童生徒の興味・関心、学習スキルについて把握する項目において
	計画の見直し	③	各学校で定める育てようとする資質や能力及び態度について確認する項目において
		④	各学校で定める評価の観点、評価規準、評価方法を把握する項目において
		⑤	年間指導計画における教科の内容と学習スキルの関連について確認する項目において
		⑥	教材について共通理解をする項目において
2	課題の設定	⑦	児童生徒の実態に応じた手立てを工夫する項目において
	情報の収集	⑧	課題や目的に応じて、相手意識もって、多様な情報収集の方法を選択する項目において
	整理・分析	⑨	目的に応じた方法を選択し、比較・分類・序列化・関連付けなど手立てを考える項目において
	まとめ・表現	⑩	相手意識や目的意識を明確にし、より効果的な方法でまとめ・表現する方法の項目において
3	課題の設定	⑪	探究の過程での評価項目において
	情報の収集	⑫	探究の過程での評価項目において
	整理・分析	⑬	探究の過程での評価項目において
	まとめ・表現	⑭	探究の過程での評価項目において

全項目の肯定的な回答の平均値が86%の割合であることと記述内容から総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価を行うに当たり参考になったことが分かる。

しかし、「1 探究的な学習における状況」の「計画の見直し」項目③④⑤⑥や「3 評価について」の「課題の設定」項目⑪において、肯定的な回答の平均値が全体平均の86%よりも低く、他の項目と比較して「単元改善シート」があまり活用されなかったことが明らかとなった。

これらの要因として、教職員のアンケート調査の記述や聞き取りによる調査から「1 探究的な学習における状況」の「計画の見直し」項目③④⑤につ

いて、「計画がすでに決まっていたので大きく見直す必要がなかった」や「学習活動をすでに行っているため途中で見直すことができなかつた」など、学習途中での見直しが意識されていないことが分かった。

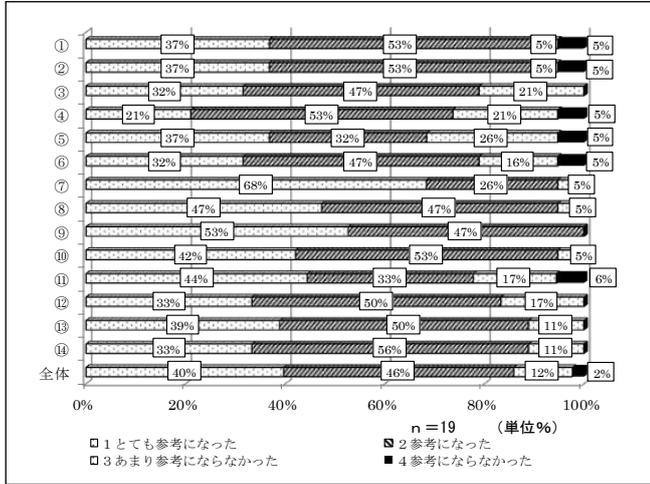


図4 教職員による「単元改善シート」の活用状況

また、「3 評価について」の探究の過程における評価について項目⑪⑫の「課題の設定」「情報の収集」について、「自己評価について4段階で評価し、自由記述を設定していなかつたため、児童の姿を見取ることができなかつた」や「グループ学習における個の学びを見取ることができなかつた」等があった。

このように、総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価を行うに当たり概ね参考になつたことが分かる。しかし、趣旨やねらいとの教職員の意識のずれや探究の過程における児童の姿を見取るための評価について課題が見られた。

## 2 「単元改善シート」の活用の実際

本研究における一年次で作成した「単元改善シート」の表3で示したアンケート項目番号に沿って、その活用状況を示し、その効果について考察する。

### (1) 「1 探究的な学習における状況」

#### ア 児童生徒の実態把握 (項目①)

##### (7) これまでの学習内容の把握

一年次における実態調査では、事前にこれまでの学習内容等児童生徒の実態把握が行われていない現状が見られた。

研究協力校において単独及び通年型サテライト研修を兼ねた学校では、各学年の年間指導計画の確認や前学年担任からの聞き取りを行うことにより、項目①を参考にし、これまでの学習内容の把握など情報の共有化を図ることができた。

表4 教職員のアンケートの記述内容の一部

項目	記述内容
1 探究的な学習における状況	実態把握 ・「実態把握の例示」を参考に、児童の興味・関心を把握することができた。このことにより課題の設定にいたるまでの学習内容が計画しやすくなった。
	計画の見直し ・何を目的としてその活動を行うのか、どのような力を育てようとしているのかを明確化することにより、共有することができた。 ・活動のつながりを関連付けたり、一本筋の通った目標を設定したりすることができた。 ・活動に思考ツールを取り入れ、評価の観点や評価の方法、付けたい力と関連付けて設定し直すことができた。 ・教科の単元を入れ替えるなどして、有効に活用することができた。
2 探究的な学習の指導について	課題の設定 ・学習内容や実態に応じて、体験活動で制作したものを比較して考えさせた。 ・「児童の実態に応じた手立ての具体例」を参考に写真を掲示し、認知規準とのずれを生かすことで児童は主体的に課題を設定することができた。 ・ウェビングやKJ法的な手法を使って、情報をつかんだ。
	情報の収集 ・ICTを活用することができた。 ・地域の祭りで、フリップボードを持ってインタビューをした。
	整理・分析 ・例示されているカードを使ったKJ法的な手法で情報を整理することができた。 ・「改善のポイント」の「目的に応じた思考ツールを組み合わせる」がヒントになった。 ・グループ協議の目的を明確にするとともに、個人が役割をもち、全員が参加できる体制を作ることができた。
	まとめ・表現 ・相手や目的に合わせて効果的な方法でまとめたり、表現したりすることができた。
3 評価について	課題の設定 ・活動後、他者評価等の多様な評価方法を行うことができた。
	情報の収集 ・何で評価するのかいくつか方法が挙げられているので、参考にして評価方法を考えることができた。
	整理・分析 ・自己評価の項目について学年で吟味して工夫した。
	まとめ・表現 ・児童同士の相互評価をする場の設定ができた。

### (4) 児童生徒の興味・関心、学習スキルの把握 (項目②)

一年次における実態調査からウェビングやアンケート調査等により、児童生徒の興味・関心や学習スキルについての把握が行われていない現状が見られた。

府中町立府中中央小学校第5学年では、これまで、単元前の児童の実態把握を行っていなかつた。このことから、項目②を参考にし、総合的な学習の状況について表5のような実態調査アンケートを児童対象に行った。さらに、項目①を参考にし、前学年の担任からの聞き取りやこれまでの学習内容の把握を行った。

表5 総合的な学習の時間 実態調査アンケート

総合的な学習の時間 実態調査アンケート  
これは、テストではありません。これまでに、総合的な学習の時間で学習したことについてのアンケートです。

- 1 課題を決める時、自分で決めることができますか。  
(はい・いいえ)
- 2 課題を決める時、どんなことが難しいですか。  
①知らないことなので、調べたいことが思いつかない。  
②調べたいことがたくさんあって選ぶことができない。  
③あまり興味のないことなので調べたいと思わない。  
④その他
- 3 調べたいことをどのような方法で調べますか。  
①アンケート ②フリップボード ③インタビュー ④手紙  
⑤電話 ⑥メール ⑦本 ⑧インターネット ⑨実験・観察  
⑩その他
- 4 集めた情報をどのようにして整理したり考えたりしていますか。  
①情報を比較して考えている。  
②情報をグループに分けて考えている。  
③情報をランキングして考えている。  
④情報と情報を関連付けて考えている。
- 5 どんな方法で整理したり、分析したりしていますか。  
①カードを使って集めた情報をグループに分けて考えている。  
②集めた情報をグラフに表して考えている。  
③集めた情報をマップに表して考えている。  
④集めた情報を図に表して考えている。  
⑤集めた情報を表に表して考えている。  
⑥メリット(よいところ)やデメリット(悪いところ)を考えている。  
⑦ビフォー・アフターで考えている。
- 6 調べたことや分かったことをどのような方法で伝えていきますか。  
①新聞 ②レポート ③パンフレット ④ポスター  
⑤報告会 ⑥プレゼンテーション  
⑦パネルディスカッション ⑧シンポジウム ⑨その他
- 7 調べたことや分かったことを伝える時、どのようなことに気を付けていますか。  
①伝えたいことが相手に分かりやすく伝わるように方法を考えている。  
②伝えたい相手に分かりやすく内容が伝わるように工夫している。
- 8 誰に伝えたいですか。( )

これらの調査結果から、地域の人からの聞き取り等外部と関わる活動が設定されていないことや学級単位での学習で学年単位での学習が行われていないことが明らかとなった。

このことから、項目⑧を参考に、フリップボードを活用した地域の人からの聞き取りの活動や地域行事への参加や項目⑭を参考に、学年単位での相互評価の場の設定など単元計画の見直しへとつなげることができた。

このように、単元改善シートにおける改善のポイントとして示している「年間指導計画が、児童生徒

の実態に応じて作成されているか確認」を行い改善を図ることができた。

## イ 計画の見直し

### (7) 年間指導計画、単元計画、評価計画等の教職員の共通理解を図る(項目③④)

一年次における実態調査から、各教科等の学び方やものの考え方については、中学校において約半分の学校が年間指導計画に反映されていないことが分かった。

各研究協力校における児童生徒の実態把握の有無や年間指導計画、単元計画を見直すことにより、各学校における総合的な学習の時間の目標や育てようとする資質や能力及び態度、評価の観点、教科との関連についての確認を行った。さらに、単元改善シートの改善のポイントと示している「児童生徒の目指す姿を想定し、いつ、どのような方法で評価するかの確認」を行うことで、教職員の共通理解を図った。

このように、教職員の共通理解を図ることで、次のような計画の見直しが行われた。

まず、尾道市立美木中学校第1学年は、今年度、尾道市立原田中学校との統合に伴い、単元を新設した。

これまで、尾道市立原田中学校では、アントレプレナー教育に基づき、地域の素材である落ち葉を利用した腐葉土作りと販売を行う模擬会社を起業する学習を行っていた。今年度の統合に当たり、美木中学校では、これらの学習を引き継ぎ、第1学年の単元として、「模擬会社MNC ～Miki Natural Company～」を設立した。

模擬会社MNCでは、生徒会執行部が会社幹部となり、第1学年は各部署に分かれ、社員として商品開発や販売などの学習活動を行う。

入社式では、企業「万田酵素」からGTを招き「会社設立の心得」について聞き取る活動を設定した。また、その後、代表者による会社視察を行い、さらに、地域の企業訪問等、身近な実社会とのつながりを多く設定している。

また、三次市立三和中学校第3学年では、既存の単元における育てようとする資質や能力及び態度に関する系統性を図る観点から、単元の見直しを行った。

これまで、中学校区内の小学校や地域の人と年間3回の交流活動を設定していた。しかし、これらの学習につながりがないことや行事に参加するだけの活動となっていたため、小学校でのリトルティーチャー(小学校の経験を生かした異年齢交流の企画)、地域の人との運動会、(運動会の経験を生かした地域行事の企画)、ふれあいサロン(高齢者との共同企画)の三つの行事を、相手や場に応じた観点から生徒に企画させたことにより、生徒の主体的な学びへ

とつなげることができたと考える。

### (イ) 教科の内容やスキルと関連させた単元の見直し (項目⑤)

東広島市立吉川小学校では、これまで年間指導計画の中で、教科との関連を意識していなかった。項目⑤を参考にし、図5のように年間指導計画において、各教科との関連を明確にすることや単元計画に教科の内容とスキルを位置付けるなどの改善が見られた。

このことから、単元改善シートの改善のポイントに示している「教科で学ぶ内容と学習スキルについての関連」を行うことができた。このことにより、教科における単元の組み換えなど見直しをもった指導へと生かすことができた。



図5 東広島市立吉川小学校第3・4学年教科等と関連させた単元構造図

### (ウ) 教材の共通理解 (項目⑥)

一年次における実態調査から、小学校、中学校においては、児童生徒の実態を踏まえた教材開発を行う時間が十分に取れない状況や地域の人材や教材が既に決まっていることから、学習内容が固定化しがちになっていることが考えられた。

そこで、校内研修において、単元に関わる地域の教材についてKJ法的な手法を活用することにより、職員間の共有を図るとともに課題を明確にすることができた。

三次市立三和小学校では、今年度教職員の異動が多くあり、地域についての理解が不十分な状況が見られた。そのため、夏季休業中に校内研修を行い、2学期以降の単元の見直しを行った。

まず、前年度在籍の教職員と共に、地域における教材となり得る素材について、KJ法的な手法を用いて各自の情報を書き出すことにより短時間で情報の共有化を図った。その後、夏季休業中に、地域の地場産業や福祉施設を訪問して聞き取りをするなど、地域素材についての教材研究を行った。さらに、2学期の単元において、新たに地元の支所やコンビニエンスストアからGTを招くなど、地域の人材の活用を図った。

このように、単元改善シートの改善のポイントに示している「思考ツールを活用し、教材について共通理解を図る」ことを通して、既存の単元について、教職員がチームで考えを出し合い、短時間で地域教材に対する理解を深めることにより、学習活動に広がりをもたせることができた。

### (2) 「2 探究的な学習について」 ア 「課題の設定」

表6 三次市立三和小学校第3学年単元計画

単元名：大豆のひみつ探検隊 ～知りたい！作りたい！広めたい！ 三和の特産「成広谷とうふ」～	
次	学習活動
一次	とうふを作ろう！ ○課題を設定しよう。 ○とうふ作りについて調べよう。 ○情報を整理しよう。 ○とうふを作ろう。 ○とうふ作りの反省をしよう。
二次	成広谷とうふに挑戦しよう！ ○とうふ作りについて調べよう。 ○情報を整理しよう。 ○完璧なとうふ作ろう。 ○学習発表会で発信しよう。 ○匠に感想を聞こう。
三次	成広谷のとうふを広めよう！ ○成広谷のとうふを広める方法を考えよう。 ○情報を整理しよう。 ○地域へ発信しよう。

一年次における実態調査より、多くの学校で体験

活動や調査活動は行われているが、それらの情報から課題を設定するための多様な手立てがなされていないことが分かった。このことから、改善のポイントとして、児童生徒の実態に応じて、多様な思考ツールを活用し、課題を設定できるような手立ての工夫について示した。

「課題の設定」においては、児童生徒の興味・関心等の事前の調査が十分に行われないうまま課題が設定されていたり、児童生徒の意識のずれを生かすような具体的な指導がされずに学習が進められたりしている状況が見られた。

このことから、「単元改善シート」では、単元計画時に児童生徒の実態調査を通して、児童生徒の興味・関心について把握し、「課題の設定」の過程の導入時に「興味拡張性」と「構造不合理性」を生かした導入の工夫について提示を行った。

**(7) 「興味拡張性」の活用 (項目⑦)**

三次市立三和小学校第3学年では、表6の一次「とうふを作ろう！」において、豆腐の作り方について、家族への聞き取りや図書による情報収集を行い、豆腐作りにチャレンジする学習を行った。

これまで、「課題の設定」の導入時に、興味関心を引き出す動機付けを意識していなかった。このことから、「とうふ作りの反省をしよう」では、豆腐作りの結果の提示において、児童の興味関心を引き出す動機付け（興味拡張性）を行った。



図6 興味拡張性の活用

授業導入時に、前時の豆腐作りの活動を想起させ

た後、成果物である豆腐を箱の中に隠した状態で提示を行った。箱に入れた状態のまま豆腐の出来具合について想像を広げさせた後、提示を行った。

自分たちの作成した豆腐の出来具合に興味関心がある中で、上手に出来ていない豆腐を提示することにより、「もっと上手に作りたい」「どうして上手にできなかったのか」など、課題意識をもたせることができた。その後、成広谷豆腐（製品）と比較することで、共通点や相違点を考える活動を通して課題を明確にし、豆腐作りの再チャレンジに向けた課題を設定することができた。

**(4) 「構造不合理性」の活用 (項目⑦)**

三次市立三和小学校第4学年では、表7の一次「自然・環境マップを作ろう！」では、三和地域の自然や環境について家族や地域の人、三次市環境政策課への聞き取り調査や町探検を通して、情報の収集を行い課題の設定を行った。

表7 三次市立三和小学校第4学年単元計画

単元名：三和町環境守り隊 ～美しい自然を未来へ残そう～	
次	学習活動
一次	自然、環境マップを作ろう！ ○課題を設定しよう。 ○三和の自然を調べよう。 ○自然、環境マップを作成しよう。 ○自分たちにできることを考えよう。
二次	美しい自然を残そう！ ○グループで取り組むための情報を集めよう。 ○情報を整理しよう。 ○グループで実践しよう。
三次	取組を三次市へ広めよう！ ○取組を広める方法を考えよう。 ○情報を整理しよう。 ○地域へ発信しよう。

三次市立三和小学校第4学年では、表7の一次「自然・環境マップを作ろう！」では、項目⑥の教材の共通理解を生かし、三和地域の自然や環境について家族や地域の人、三次市環境政策課への聞き取り調査や町探検を通して、情報の収集を行い課題の設定を行った。

これまで、児童の実態調査から課題の設定の工夫がされていなかった。このことから、項目①②を参考にした実態調査を行い、その結果を生かすことで児童の認知基準とのずれを生じさせ、既存の知識との概念的葛藤（構造不合理性）を引き起こさせた。

具体的には、導入時において、これから探究していく地域の美しい自然について既存の知識である写真を提示しながら考えを広げる場を設定した。



図7 構造不合理性の活用

その後、山の中に不法投棄されているゴミだらけの写真を提示することにより、児童の認知基準である「美しいわが町」とのずれを示す。

このことにより、児童は「美しい三和町のはずが実は山の中にはゴミがいっぱいだ」や「どうしてこんなにゴミがあるのか」など、既存の知識との概念的葛藤を引き起こし、児童の興味関心や課題意識を深めることができた。

(ウ) ウェビングの活用 (項目⑦)

三次市立三和小学校第6学年では、表8の一次「20年後の自分について考え、学習テーマを設定する」では、20年後の自分についてウェビングを活用して考えを広げる学習を設定した。

これまで、「課題の設定」においてウェビングの活用を行っていなかったが、児童の既存の情報をウェビングにより可視化することで、児童自身が自分の考えを把握することができ、教師も児童の考えを見取ることができた。

表8 三次市立三和小学校第6学年単元計画

単元名：もっとすばらしい自分へ ～三和の輝いている人から学ぶ～	
次	学習活動
一次	なりたい仕事を調べよう！ ○課題を設定する。 ○自分がなりたい仕事ついて情報を集めよう。 ○情報を整理しよう。 ○お仕事交流会を開こう。 ○直接、地域の働いている人から学ぼう。
二次	輝いている人から学ぼう！ ○輝いている人の情報を集めよう。 ○情報を整理しよう。 ○学んだことを伝えよう。
三次	20年後の自分へメッセージを送ろう！ ○学んだことを自分へのメッセージにしよう。 ○情報を整理しよう。 ○ビデオメッセージ鑑賞会を開こう。

児童は、中学校、高等学校と時系列に沿って、自己の成長を想定しながら将来について自分の考えを

書き出していった。学校を卒業し社会に出る段階に至ると一人一人の希望や価値観などが記述されるようになった。

図8の児童は、自分の将来について水泳選手を希望しているが、亡くなった祖父や父の仕事である「パン菓子作り」や「焼き米作り」についても自分が受け継ぐという意識から将来についての記述を行っている。このように、多様な将来について想定する学習は、多様な自己の生き方につながると考える。

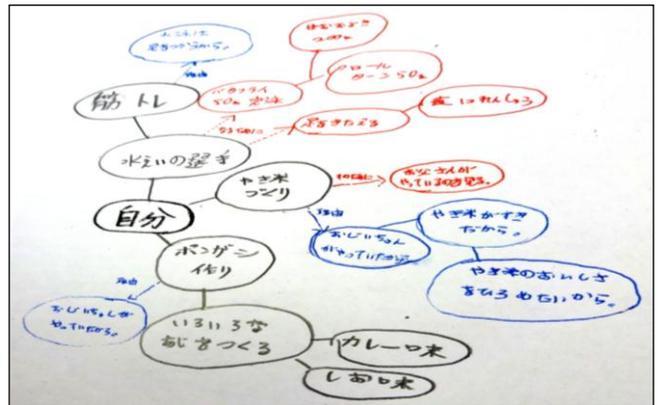


図8 家族の一員としての関連

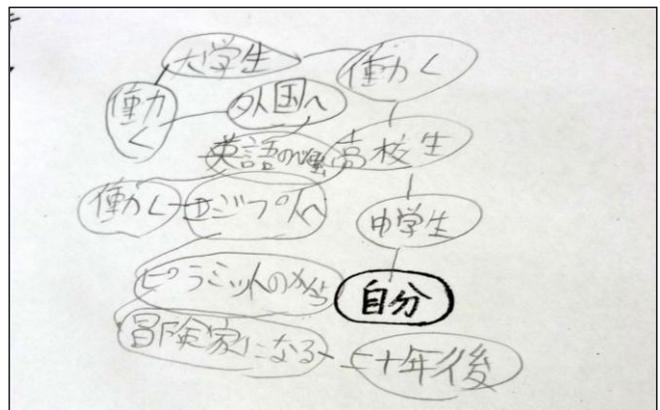


図9 自己の将来と教科との関連

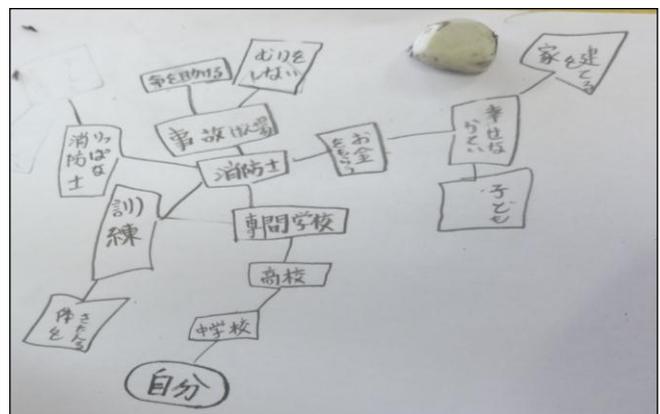


図10 自己の将来とワークライフバランスの関連

また、図9の児童は、考古学に興味関心があり、将来の職業として考古学者を希望している。ウェビ

ングを書き込む中で、外国で考古学を行うためには、英語力が必要なことに気付くことができている。

このように、自分の将来と教科等との学習をつなげることにより、必然性のある学習となり学習意欲が高まると考える。

図10の児童は、消防士を希望しており、消防士として必要な訓練や人の命を守ることにについて気付いている。また、自己の生命の尊重や家庭生活についても考えをもっており、自己の将来や職業について考えさせる学習において、職業に特化することなく、自己の生活についての考えをもたせるなど、生き方であるワークライフバランスの視点の必要性が分かる。

このように、教師が児童生徒一人一人の思考の過程を読み取ることでその後の指導に生かすことや児童生徒自身が自分の考えを把握し、興味関心を自覚することができることから、「課題の設定」におけるウェビングの活用は有効であることが分かる。

三次市立三和小学校第4学年では、表7の一次において、単元導入時に児童自身の情報をウェビングを活用し書き出す学習を行った。図11のように教師が、児童一人一人の考えを把握することや児童自身が自己の情報を把握する上で有効であったが、図12に示すように、地域の情報の書き出しではなく、言葉の連想になっている児童が見られた。

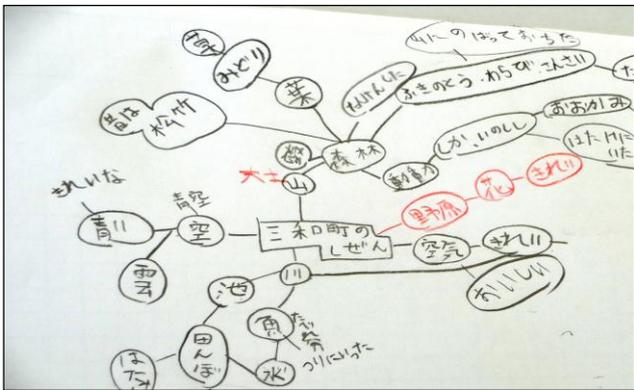


図11 キーワードに関連する事柄を示すウェビング

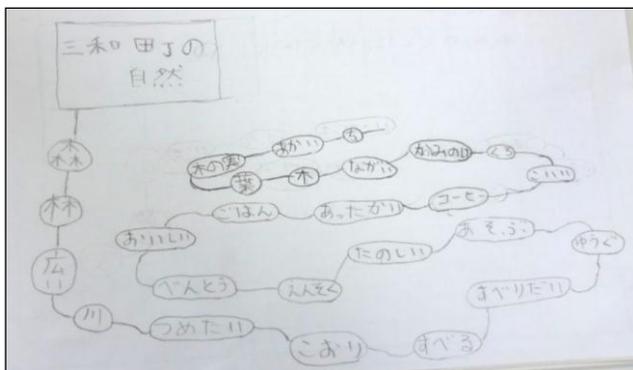


図12 言葉の連想になっているウェビング

このように、ウェビングの導入段階においては、児童の実態を把握しながら、実生活とのつながりや教科における既習事項など視点を与えながら指導を行う必要があることが分かった。

### イ 「情報の収集」(項目⑧)

一年次における実態調査より、「情報の収集」の過程において、相手や目的に応じた多様な方法が指導されていないことが明らかとなったことから、多様な方法が選択できるよう「単元改善シート」に方法の一覧を提示した。

### (7) フリップボードの活用

表9 府中町立府中中央小学校第5学年単元計画

単元名：自然を知って環境を考えよう	
次	学習活動
一次	今年度のまなビーの学習のテーマを知り学習の見通しをもつ。
二次	環境問題について書籍やインターネットを使って知る。
三次	府中町以外の自然の様子と他地域とを比較し、よさや問題点を見出す。
四次	環境問題の中からテーマを一つ決めて、個人調べを行う。
五次	個人テーマでの調べ学習を整理し、新聞作りに向けて構成する。
六次	環境出前教室で、地球環境が悪化していることを知り、課題設定に役立てる。
七次	環境問題の個人テーマ新聞作りをする。
八次	府中町の環境について考える。
九次	同じテーマを設定した友達とグループを作り、共同研究をする。
十次	グループ新聞の中間発表を行う。
十一次	改善点などを踏まえてグループ新聞を再構成する。
十二次	共同研究したことをグループで新聞にまとめる。
十三次	家の人や地域の人に自分たちの学習を発表する。
十四次	自分達の実践を行う。
十五次	パソコンのプレゼンソフトなどを利用して、調べたことをまとめる。
十六次	一年間の学習を振り返り、自らの成長を感じ、来年度に向けて学び方を話し合う。

府中町立府中中央小学校第5学年では、表9の九次「共同研究」において、「1 探究的な学習の状況」における実態調査や計画の見直しから、これまで児童は、地域に出かけて人から直接情報収集を行ったことがなかったが、地域行事の「椿まつり」において、公衆衛生協議会主催のブースへの参加やフリップボードを活用した地域の人々のごみの分別の実態調査を行うことができた。児童はこれまでフリップボードを活用することがなかったが、教師の指導により、その有効性に気付くことができた。

また、これらの活動を参考にし、他のグループでは、地域のスーパーマーケットでの聞き取り調査へと広げることができた。児童の感想から、「声のかけ方や聞き方によって質問に答えてくれるかどうか決まる」や「若い人は忙しそうで答えてもらえなかったけれど、高齢者は丁寧に答えてくれた」など年齢層によって情報収集が異なる等新たな気付きが見られた。

このようにフリップボードを活用した体験活動を通して、コミュニケーション力を伴う児童の主体的な学習へとつなげることができた。

#### (イ) 遠隔地の情報収集 (項目⑧)

一年次における実態調査より、地域の人材不足や遠隔地であるためゲストティーチャーに直接インタビューをすることが難しい等の記述が多く見られた。

このことから、改善のポイントとして、ICTを効果的に活用し、遠隔地からの情報収集の工夫についての記述を行った。

東広島市立吉川小学校第3・4学年では、表10の二次「志和堀小学校の取組を聞き、できることを考えよう」で、同市においてホテルについて学習を行っている志和堀小学校の取組を知り、ホテルを増やすために自分たちにできることについて検討を行った。

表10 東広島市立吉川小学校第3・4学年単元計画

単元名：吉川の自然 増やし隊 ～ホテルが舞うすてきな吉川を創ろう～	
次	学習活動
一次	古河川の自然の実態調査し隊！ 古河川の川探検で川の現在の様子について理解することができる。
二次	志和堀小学校の取組を聞いてできることを考えよう実態調査をしたことと先進的な取組を続けている志和堀小学校の活動を関連させて考え、調べてみたい課題を決めることができる。
三次	自分の課題を詳しく調査し隊！ 調べたい課題に合った方法で各自が調べることができる。

四次	調べたことの中間報告会を開きパワーアップさせようこれまで調べたことを友達と伝え合い、さらに詳しく調べたいことを見付けることができる。
五次	「古河川の自然増やし隊」活動報告会を開こうこれまでに学習したことをまとめ、地域の方や外部講師の方にお知らせする報告会を開くことができる。
六次	学習を振り返ろう これまでの学習を振り返り、取組の成果を明らかにするとともに、自分たちの成長を確認することができる。

志和堀小学校は吉川小学校より遠隔地にあり、児童が直接インタビューを行うことができないことから、教師が事前に取材を行い、図13のように写真を提示しながら聞き取った内容について児童に伝える場面を設定した。さらに、手紙を活用することで、志和堀小学校の児童との交流を行った。

このことにより、教師の語りや手紙を通して志和堀小学校の取組や志和堀の地域の人の願いを理解することができた。



図13 教師による遠隔地の情報収集

#### (ウ) ICTを活用した情報の収集

表11の六次「新しい吉川を創造しよう！「吉川らしいおみやげ」開発プロジェクトでは、平成25年度より、オーストラリアヴィクトリア州メルボルン郊外のMooneeponds West Primary School との交流を行っていることから、図14に示すテレビ会議を通してオーストラリアのお土産についての情報収集を行った。

遠隔地でありながら、時差のないオーストラリアとの交流により、授業の中で児童が直接交流しながら情報収集を行うことができた。

このように、1年次の課題であった遠隔地における多様な情報収集や交流活動についてICTを活用することに可能性を広げることができた。

表11 東広島市立吉川小学校第6学年単元計画

単元名：SUNNY トラベル 吉川 ～吉川よさを世界に発信しよう！～	
次	学習活動
一次	〇〇旅行会社を立ち上げよう！ 会社名や活動内容を考え、「吉川」のよさを世界に発信することに意欲をもつことができる。
二次	情報を集めよう！ 吉川村誌などを調べたり、インタビューや実際に現地に行ったりして、必要な情報を集め、目的に応じてまとめることができる。
三次	パンフレットを作ろう！ 考えたツアーを相手に分かりやすいパンフレットにすることができる。
四次	集客しよう！ どうすればお客様を集められるか考え、集客の計画・準備をし、実際に行動することができる。
五次	「SUNNY トラベル 吉川」ツアー開催 相手意識をもち、分かりやすく楽しくツアーに案内するとともに、自分の役割を果たすことができる。
六次	新しい吉川を創造しよう！「おみやげ開発プロジェクト」 情報収集やツアーの活動を通して見つけた地域の課題を解決するために、計画・準備・実行することができる。



図14 テレビ会議による情報収集



図15 炭や水草を活用した水の浄化実験

この他にも、情報収集の一覧を活用し、三次市立三和小学校第3学年における豆腐作りの「実験・観察」の活用を通して、自分たちが作った豆腐とプロの豆腐の作り方や出来具合の違いを比較することで、より一層プロの素晴らしさに気付かせることができた。さらに、府中中央小学校第5学年「大気汚染」グループは、地域の雨水と山間部（鳥取県日野町）の雨水の違いについてパックテストを通して視覚的に違いについて理解することができた。

また、東広島市立吉川小学校第3・4学年では、ホテルの住めるきれいな水をつくるために、図15の地域の炭や水草を活用した水の浄化について「実験・観察」を通してその有効性を確認することができた。

### ウ 「整理・分析」(項目⑨)

一年次における実態調査より、「整理・分析」の過程における指導方法が理解されておらず、思考を深める方法が活用されていないという課題が見られた。このことから、「単元改善シート」に「整理・分析」の過程における多様な方法の提示を行った。

### (7) KJ法的な手法の活用

三次市立三和中学校第3学年では、表12の六次「ふれあいサロン」の活動後の振り返りにおいて、グループごとに生徒一人一人の気づきを出し合い、情報の把握や他のグループとの共有においてKJ法的な手法を活用した。

第二次に企画書を基に、グループで考えを出し合う活動を行ったが、生徒一人一人の考えを出すことが難しく、話し合いがスムーズに行うことができなかった。KJ法的な手法を活用することにより、カードに記述した内容を発表しながら検討を行うことで、話し合いを活性化することができた。さらに、KJ法的な手法を円滑に行うため、グループの人数や生徒の構成についても改善を図ることができた。

表12 三次市立三和中学校第3学年単元計画

単元名：地域福祉行事への交流学习（ふれあいサロン）	
次	学習活動
一次	ふれあいサロンでの中学生の果たす役割
二次	ふれあいサロンの目的と課題設定
三次	情報の収集と企画の再検討
四次	各企画の実実施計画書の作成 担当サロンごとの会長さんとの企画の交流 事前準備
五次	企画した内容の実施
六次	振り返りと情報発信

尾道市立美木中学校第1学年では、模擬会社MNCにおける（企画開発部）企画課，研究開発・品質管理課，（製造部）生産課，（営業販売部）営業販売課，財務課の各課における仕事内容について，生徒一人一人の考えを出し合い，課の仕事について共通理解を図ることができた。

このように，一人一人の考えを引き出すことや多くの情報の把握や情報を共有する活動において有効であることが分かった。

表13 尾道市立美木中学校第1学年単元計画

単元名：MNC（美木ナチュラルカンパニー） ～分析表（PMK）を基に，課で改善すべきことを考えよう～	
次	学習活動
一次	情報に接しテーマを設定する ○働くことについて考える。 ○職業について知る。
二次	テーマを追求する ○MNC（美木・ナチュラル・カンパニー）の活動についての学習テーマの設定をする。 ○講演会（企業について，経営者から話を聞く）を聞く。 ○入社式 ○自分の付けたい力を考える。 ○企業と人材の関係について考える。 ○MNCの活動を行う。
三次	追求した結果をまとめる ○MNC活動のまとめ・活動の振り返りをする。
四次	他に働きかける ○新入社員に向けてのプレゼンテーションを作成する。 ○第2学年時の職場訪問について学習したことを生かす方法を考える。

(イ) ベン図の活用

東広島市立吉川小学校第3・4学年では，表10の二次において，吉川小学校とホテルを守る活動を行っている志和堀小学校の取組を比較しながらベン図

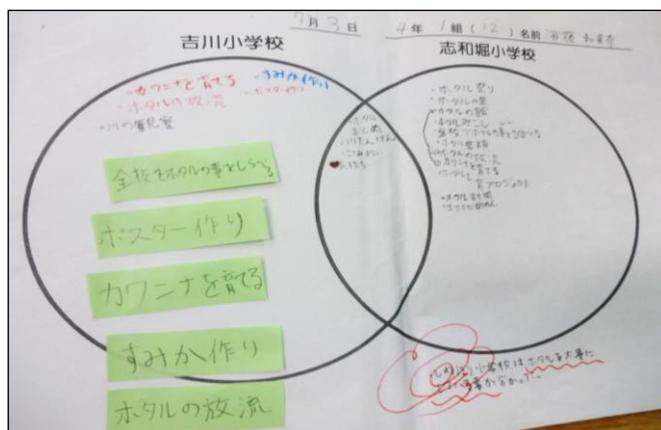


図16 ベン図を活用した他地域との比較

を活用して取組の共通点を考える活動を行った。空間軸による他地域との比較をすることにより，自分の地域の特徴を明確にすることができた。

(ウ) 座標軸の活用

東広島市立吉川小学校第3・4学年では，表10の二次において，図17自分たちができるホテルを増やす活動として座標軸を活用した。縦軸を「実現可能・不可能」，横軸を「自分たちで・大人の力を借りて」とした。また，東広島市立吉川小学校第6学年では，表11の六次において，吉川のお土産について検討を行った。座標軸の縦軸を「実現可能・不可能」，横軸を「吉川のお土産らしいか・否か」とした。

この他にも，三次市立三和中学校では，地域の方と共同企画を行った「ふれあいサロン」における企画において，交流活動の内容について縦軸を「実現可能・不可能」，横軸を「高齢者にとって参加できるか・否か」とし，相手意識をもって検討を行うことができた。

このように，思考を促す内容によって座標軸の視点を考慮することにより，児童が多面的に物事を考えることができ，比較することで考えを明確にすることができる。

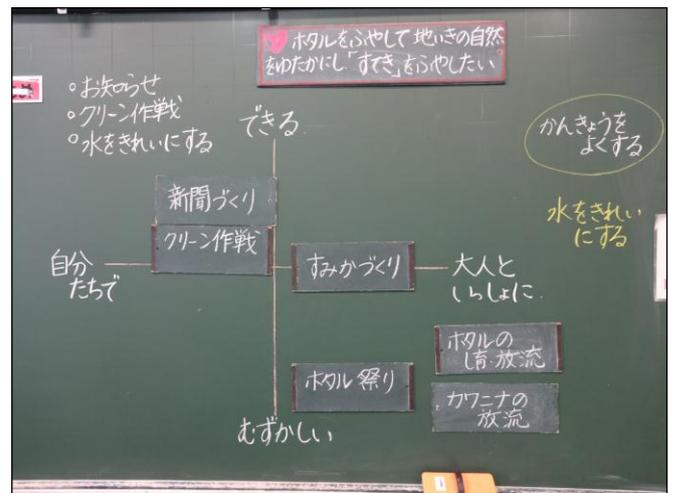


図17 自分たちができること

(エ) マップの活用

三次市立三和小学校第4学年では，表7の一次において，地域に不法投棄されているゴミの分布をマップに表した。このことから，どのようなところにゴミが多くあり，ゴミを捨てる相手やゴミが多い環境について考えることができた。

東広島市立吉川小学校第3・4学年表10の二次において，吉川地域におけるホテルが目撃された場所についての分布をマップに表した。マップに表すことで，「どのような場所が多いのか」や「どうしてその場所で多いのか」など，川を取り巻く環境について考えを深めることができた。

このように、マップによって可視化することで、取り巻く環境やその原因について考えを深めることができた。

**(オ) その他(短期目標、長期目標)の活用**

尾道市立美木中学校第1学年表13の二次において、第1回目の文化祭における「腐葉土」の販売活動の振り返りにおいて、KJ法的な手法を活用して共有化を図った自分たちの部署としての役割を基に、図18のマトリクスを活用して次回の販売活動への改善について検討を行った。

図18に示すように、第3回目の販売活動である、原田地区での工夫を短期目標とし、その後の活動を長期目標として話し合いを行った。販売活動における気付きを出し合う中で、自分の部署における工夫改善についての話し合いを行うことができた。部署ごとの話し合いを行った後、部署ごとの発表を行うことで、全体での共有を図ることができた。

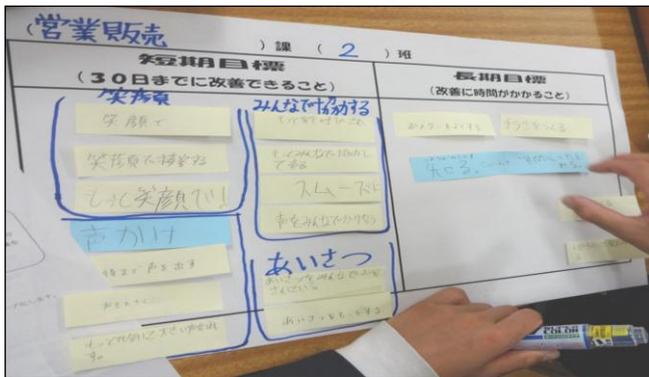


図18 各部署における短期目標・長期目標（営業販売課）

**エ 「まとめ・表現」(項目⑩)**

一年次における実態調査より、相手意識や目的意識を明確にして、多様な方法から適した表現方法を選択することができていないという課題が明らかとなった。総合的な学習の時間だけではなく、これらのスキルは教科と関連させることでまとめ・表現の方法を習得させることが期待できる。

このことから、「単元改善シート」に教科の内容と活用する学習スキルを関連させることを提示した。

**(ア) 新聞作り**

府中町立府中中央小学校第5学年では、表9の七次と十二次において2回の新聞作りを設定した。

1学期七次は、地球規模の環境問題について図書資料やインターネットによる情報収集を行い、収集した情報をまとめることを目的として個人新聞を作成した。環境について個人のテーマに沿って、新聞を作ることで、多くの情報を把握し、情報を選択することで、内容を明確にすることができた。

その後、個人テーマを設定し、地域の人々やGTから聞き取りを行うことで、テーマに沿った情報を

収集し、同じテーマのグループで壁新聞作りを行った。複数の児童で協同的に新聞を作成することで、内容や表現方法の吟味ができ、テーマにせまる新聞作りを行うことができた。

このように、目的に応じた新聞作りを行うことにより、多様な表現力につながると思う。

**(イ) 米作りの歌詞作り**

東広島市立吉川小学校第5学年では、表14の七次において音楽科との関連を図り、歌詞作りを行った。

表14 東広島市立吉川小学校第5学年単元計画

単元名：われら吉川 米づくり隊！ ～受け継ごう！伝えよう！吉川米！～	
次	学習活動
一次	米作りについて調べよう 米作りについて、興味・関心のあることをインターネットや資料を使って調べることで、吉川の米作りへの関心を深めることができる。
二次	田植えをしよう 学校田に、自分たちが種まきした苗を全校児童や長寿会、保護者の方と一緒に田植えをすることができる。
三次	3・4年生と交流しよう 体験したことや調べたことなど、米作りについて調べたことを話し合うことで、自分の考えを深め発表している。
四次	案山子を作ってお米を守ろう 田植えをした苗が実って穂になること鳥から穂を守るために、友達と協力して案山子作りを計画することで、吉川のお米に愛着心を深めることができる。
五次	稲刈りをしよう 学校田の稲刈りを全児童や長寿会、保護者の方とともにすることで、吉川の米作りに愛着をもつことができる。
六次	収穫したお米を販売しよう 吉川の文化祭で作った米を販売することで、地域の方への感謝の気持ちをもつことができる。
七次	おもてなしの会を開こう 地域の方への感謝の気持ちを餅料理や歌などで表現したり、収穫したお米を使って餅つきをプレゼントしたりすることができる。
八次	学びの振り返りをしよう 吉川の地域のよさに気付き、地域を大切にしようとする気持ちをもつことができる。

地域のGTに子供たちが口ずさんだメロディーから作譜してもらい、曲に合わせてこれまでの体験活動やその他の学習の中で、伝えたい事柄を選択し、歌詞作りを通して内容の検討を行うことができた。

図20の2番目の歌詞である「案山子」について子供たちの多くの学びを引き出すために、三つのキー

ワード「案山子のよさ」「案山子の様子や学んだこと」「案山子への感謝の気持ち」を提示し、図19に示すYチャートを活用した。

小学校、中学校においては、児童生徒の実態を踏まえた教材開発を行う時間が十分に取れない状況や地域の人材や教材が既に決まっていることから、学習内容が固定化しがちになっていることが考えられる。

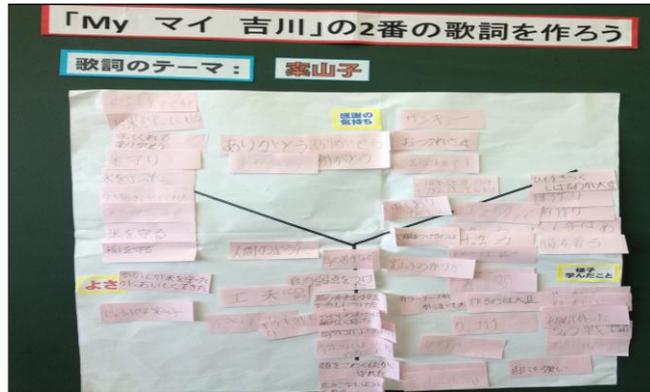


図19 これまでの学びを引き出すYチャート

「MY マイ 吉川」われら吉川 米づくり隊！

- お米を作るぞ エイエイオー  
種をばらばら 苗作り  
元気に育ってね ターナーマキマキ ターネマキ  
足がはまって うんとこしょ  
尻もちついても がんばった  
どろんこになった 田・植・え  
吉川のみなさん 協力ありがとう
- 案山子を作るぞ エイエイオー  
竹をギコギコ かた作り  
丈夫な案山子が デキデキタヨ デキタヨ  
雨にも負けずに がんばった  
びしょびしょになった 案・山・子
- 稲刈り脱こく エイエイオー  
かまでザクザク 稲刈り  
みんなでがんばった イネイネカリ イネカリ  
かゆいけど協力し かり終えた  
かんそうさせて 脱こくだ  
玄米になった お・こ・め  
長寿会のみなさん 協力ありがとう
- 精米販売 エイエイオー  
精米所まで 運んだよ  
きれいなもち米が ダクダクサンデキタヨ  
お米を販売 売れるかな  
もち米どンドン 売れていく  
みんなでがんばった は・ん・ばい  
今まで見みなさん 協力ありがとう

図20 米作りに関する歌詞作り

これらのキーワードを基に、図20に示す案山子についての歌詞作りが行われた。その他の歌詞についても、児童がどのような体験活動や学びがあったか見取ることができた。

「案山子のよさ」については、丈夫なことや鳥からお米を守ってくれたこと、「案山子の様子や学ん

だこと」については、竹を切ってひもをきつく縛ることが大変だったことや雨にも強いこと、そして、多くのねぎらいや感謝の気持ちが出された。

また、「おもてなしの会」では、これまでの学びを劇で表現したり、「MY マイ 吉川 われら吉川米づくり隊！」の歌を披露した。また、育てたお米から作ったお餅とお米から商品開発した「もちもちライスコロッケ」のプレゼントをするなど、子供たちの学びと感謝の気持ちを表現することができた。さらに、地域の文化祭において自分たちが育てた米の販売活動を行った。

#### (ウ) 地域や公共機関における表現活動

東広島市立吉川小学校第3・4学年では、地域の文化祭において、地域発信する活動を行った。自分たちが学んだホタルについて水を浄化するための炭や水草を活用した実験や石鹸作り、ホタルの生態等地域の文化祭のブースにおける展示や広報活動を行った。さらに、地域の「なんじゃもんじゃの会」の方や東広島市役所環境対策課に自分たちの学びを伝えることや東広島市役所にポスターを展示してもらえるようお願いするなど、多様な表現方法や多様な表現の場を設定することができた。

表15 ツアー計画

歴史探訪部	吉川の歴史に関する情報まんさい！吉川からつながる歴史にふれてみませんか？
	9:00 学校出発→9:10 西福寺到着→9:30 西福寺出発→10:00 長寿の森到着→10:20 長寿の森出発→11:00 竹内家の説明→11:10 吉川ふれあいの里到着 11:40 吉川ふれあいの里出発→11:50 学校到着
ふれあいお土産部	野菜などが売ってあるふれあいの里に行きます。その後、長寿の森という所で木で遊びをします。
	9:00 出発→9:30 長寿の森到着→10:30 長寿の森から出発→西福寺で休憩→11:15 ふれあいの里到着→出発→学校到着
自然アグリカルチャー部	吉川には自然がいっぱい！みんなの森は楽しいよ！
	9:00 出発（吉川小学校）→10:00 みんなの森到着！→10:10 休憩タイム→吉川やみんなの森について説明！→10:35 植物などのクイズをします（クラフトもします）→10:55 みんなの森で記念撮影！→11:00 みんなの森を出発！→11:00 みんなの森を出発！→11:45 吉川小へと向かいます！→12:00 吉川小に到着

## (I) 留学生へのツアー企画・実施

東広島市立吉川小学校第6学年では、国際教育と関連させ、表11の六次において、吉川地域のよさを留学生に伝えるツアーを企画し、プレゼン及びツアーを実施した。自分たちの住んでいる地域のよさについて、「歴史探訪部」、「ふれあいお土産部」、「自然アグリカルチャー部」の3部に分かれて調べ活動を行い、その結果から、ツアーの企画を行った。

その後、JICAの協力により、中国からの研修生(大学生)との交流を通して、中国四川の自然や食文化、文化遺産についての聞き取りやツアーに向けてのプレゼンを行った。その後、ツアーの希望をとり、ツアーを実施した。

### (3) 「3 評価について」 (項目⑪⑫⑬⑭)

一年次における実態調査より、評価の観点及び評価規準について教職員間で共通理解を図ることや異なる評価方法、異なる評価者による多様な評価を適切に取り入れることができていないという課題が明らかになった。

このことから、「単元改善シート」に、評価の観点、評価規準及び多様な評価方法を確認し、記述を行うよう提示した。

#### ア 自己評価

府中町立府中中央小学校第5学年では、表9十次における授業の導入部分で、本時のめあてとして、「新聞が課題や考えに合った内容で構成されているか考え、よりよいものになるようにお互いに意見を出し合おう」を提示した。

めあてに対する自己評価では、次の2点が考えられる。1点目は、「新聞が課題や考えにあった内容構成であるかについて考えることができたか。」2点目は「よりよいものになるように意見を出すことができたか。」である。これに対し、振り返りカードでは、「①課題や自分たちの考えを明確にして、分かりやすく中間発表することができたか。」「②他のグループの中間発表に対して、自分の意見を付箋に書くことができたか。」「③他のグループの中間発表に対して、自分の意見を言うことができたか。」「④グループで改善点について話し合うとき、積極的に話し合うことができたか。」であった。

振り返りにおける自己評価では、発表や気付きを書くことや述べることにすることや積極的に話し合いに参加することができたかどうかについて評価を行うことができるが、めあての1点目である「新聞が課題や考えに合った内容構成に関する意見を出すことができたかどうか」について見取ることが難しい。このように、指導と評価の整合性を明確にすることが重要であることが分かった。

また、自己評価において、単元全体を通して毎時間評価する内容と1単位時間における評価内容とを

明確にすることにより、指導とそれに対する評価の整合性が見られると考える。

## イ 体験活動後の振り返りにおける自己評価及び相互評価

体験活動後の授業における導入時や終末において、ICTを活用した体験活動の想起や振り返りを行った。

三次市立三和小学校第5学年では、表16二次において地域の福祉施設「喜楽園」で交流活動後の振り返りにおける授業導入時に、交流場面の写真の提示を行った。

児童の行動観察から、自分たちが「喜楽園」を訪問し、高齢者の方の楽しそうな様子を見ることで、自分たちの活動が有効であったことを感じることができていた。

このように、体験活動全体の想起や自己の活動をメタ認知することで、相手意識をもって自己評価や相互評価に生かすことができたといえる。

さらに、指導の手立てが児童生徒にとって有効であったかを見取るために、振り返りの中で項目立てて問うことが、評価の信頼性を高める上で重要であると思われる。

また、三次市立三和中学校第3学年では、三次市立三和小学校第5学年の授業実践を生かし、地域の高齢者との交流活動である「ふれあいサロン」の企画の振り返りを行った後、交流の実際について交流時の写真を音楽付のスライドショーで提示することで、交流の有効性についての確認を行うことができた。

導入時や終末時など、交流を振り返る場面については、児童生徒の思考の過程を考慮することにより、効果が高まると考える。このように、効果的なICTの活用場面や方法については、今後の課題である。

表16 三次市立三和小学校第5学年単元計画

単元名：三次市に提言!! 誰もが、安心・安全に住める町、三和を作ろう!!	
次	学習活動
一次	お年寄りと交流しよう! ○課題を設定しよう。 ○お年寄りが喜ばれることを調べよう。 ○喜楽園訪問の計画を立てよう。 ○喜楽園を訪問しよう。 ○喜楽園訪問を振り返ろう。
二次	お年寄りと交流しよう! ○もっとお年寄りが喜ばれることを調べよう。 ○喜楽園訪問を成功させる。 ○再度喜楽園を訪問しよう。 ○お年寄りと交流したことを振り返ろう。
三次	お年寄りにやさしい町をつくろう! ○お年寄りにとって生活しづらい場所を探そう。 ○情報を整理・分析しよう。 ○三次市へ提言しよう。

## ウ 相互評価

**【中間発表】**

○課題は何か（何が問題なのか）

○課題に対して**自分たちの考え**（自分たちにできること、うったえたいこと）

○本やインターネットで**調べて分かったこと**（文章・資料）

○自分たちが地域で**調べてわかったこと**（文章・資料）

○アドバイスをしてほしいこと

**【コメント】**

○課題や考えに対して

①文章のよい点・改善点（その理由も）・・・**水色**

②資料のよい点・改善点（その理由も）・・・**黄色**

**【約束】**

○1グループに1まいは必ずコメントを書く。

○授業で1回は必ずコメントを発表する。

○付せんには必ず名前を書く。

(名前)

図21 評価の視点

府中町立府中中央小学校では、表9の十次において、学年単位で相互評価の場面を設定した。

導入時に、発表の視点や評価の視点を明確にすることで、評価規準が共有化された。

児童の振り返りから、「自分たちだけで学習するより、別の人の意見も聞いて作ればよかった」「いろんなクラスのこと話すことは、いろんな意見が聞けていいなと思った」「他のグループの工夫を生かしていきたい」「インターネットに頼らず、インタビューやアンケートをするといいと思った」等、相互評価を行う場を設定したことにより、学習に広がりができることを実感することができた。

### エ 外部評価

三次市立三和小学校第5学年では、表16一次「お年寄りと交流しよう」では、地域の福祉施設である「喜楽園」における交流活動を行い、活動についての整理・分析を通して、自己評価を行った。その後、外部評価として、担任が「喜楽園」の方から感想の手紙を読み上げ、交流活動のよさや改善点についての指摘など評価を設定した。

このことにより、自分たちの交流活動が喜楽園の高齢者にどのように受け取られたかについての検証を行うことができ、さらに、自分たちが気付かなかった指摘を受けることで、達成感や次回の活動への関心意欲を高めることができた。

東広島市立吉川小学校第5学年では、表14の七次において、米作りの取組や願いについての歌詞作りを行った後、地域の作曲家であるG Tに評価を受ける場を設定した。歌詞の内容のよさについてのコメントや歌を聞いたことから、歌いやすくするためのキーの調整など活動に対する的確な評価を受けることができた。

東広島市立吉川小学校第5学年では、表14の七次において、米作りの取組や願いについての歌詞作りを行った後、地域の作曲家であるG Tに評価を受ける場を設定した。歌詞の内容のよさについてのコメントや歌を聞いたことから、歌いやすくするためのキーの調整など活動に対する的確な評価を受けることができた。

また、第3・4学年では、自分たちが調べたことをポスターにまとめ多くの人に知ってもらうために、市役所の受付に掲示する設定を行った。さらに、ホテルを増やす活動について、地域のグループ「なんじゃもんじゃ」の方や東広島市役所環境政策課の方を招き、子供たちの活動にアドバイスをいただいた。実社会の市役所の方に、自分たちの活動に対して指摘してもらうことで、社会とのつながりや学習意欲へとつなげることができた。

### 5年生のみなさん

26日はありがとうございました。

みなさんの真剣な気持ちがよくわかりましたよ。みなさんは、積極的にお年寄りの方とふれあっていたので、びっくりしました。そんなみなさんから、私たちも学ばせてもらいましたよ。お年寄りの目の高さにあわせて話しかけている人。「何かできることはないですか？」と自分から尋ねている人。「どこのコーナーに行きたいですか？」と聞いて連れて行ってあげている人。

みんなちゃんと敬語で話しかけ、お年寄りの笑顔をたくさん引き出してくれていました。とてもうれしかったです。一人ひとりが自分なりの力を出して、取組んでいるのがすごく伝わってきました。できればこうだったら良かったと思ったことが2つあります。一つは、ぬりえを楽しみにしているお年寄りがおられたこと、もう一つは、好評だった肩もみコーナーにもっとマッサージ師の子がいてくれるとよかったなということです。最後に、お年寄りの方たちから、みなさんへのメッセージです。「わたしたちは、ふだん子どもたちとふれあうことがありません。だから、5年生のみなさんとふれあえて、とても、とても楽しかったよ。だから、みなさんが帰るとき、見送りをしたかったよ。また、ふれあう機会があればいいなあ。また、ふれあえるとうれしいなあ。」

喜楽園 職員より

図22 喜楽園の方からの聞き取りによる手紙

- 手紙をもらって、もう一度お年寄りと触れ合いたいなあと思いました。
- お年寄りが、私たちの訪問を楽しんでくださったことが良かった。塗り絵や肩もみコーナーの人数を増やしてほしいと言われていたので、増やせばよかったと思います。また訪問するときにはお年寄りの希望や反省を生かして、もっと笑顔になってもらいたいと思いました。
- お年寄りが小さなものが持てない時には、進んで持ってあげたいと思います。

図23 児童の自己評価カード

第6学年では、交流を行った中国の留学生の方に感想をもらうことで、自分たちの企画したツアーに対する検証を行うことができた。

**【歴史探訪部ツアー】**

私たちは、4グループに分かれて別のルートで進んだ。私のグループの小学生はいろいろな地方の歴史を紹介してくれた。私も中国について面白いものを紹介してあげた。とても楽しかった。

魏 春艳 (ギ シュンエン) さん

**【自然アグリカルチャー部】**

私たちのグループのツアーは、「みんなの森」に行くことでした。頂上に着いたら子供たちにパンダのキーホルダーをあげました。私たちも子どもが自分でつくったしおりをもらいました。学校に戻ったら、子どもたちが感謝の歌を歌ってくれてとても感動しました。

何 転禎 (カ ウンショク) さん

図24 ツアー後の感想(留学生)

## V 研究のまとめ

本研究における1年次の意図が機能したことを示す。

「単元改善シート」を活用することにより、児童生徒の実態把握や計画の見直し、探究的な学習の指導と評価における課題を明確にし、それらを改善することに有効であることが分かった。このことから、「単元改善シート」の活用を通して、これから求められている課題発見と解決に向けて児童生徒が主体的・協働的に学ぶ学習である「アクティブ・ラーニング」やそのための指導方法等の充実へとつながると考える。

また、研究協力校における「単元改善シート」の具体的な活用方法や改善の具体例を提示することにより、県内外の小学校、中学校の総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価の改善へとつ

ながると考える。

## おわりに

本研究において、成果として「単元改善シート」を活用し、県内の研究協力校（小学校3校、中学校2校）において、探究的な学習の指導と評価における各学校の課題を明確にすること、及び具体的な活用方法や改善の具体例を提示することができた。

課題としては、評価に係る改善について不十分な点があったと考える。具体的には、1単位時間における評価規準と児童生徒の学びの成果を見取る評価方法との整合性が十分に図られていない事例が多かったことが挙げられる。また、「課題の設定」や「情報の収集」における評価が十分ではないことが明らかとなった。このことから「単元改善シート」の「3評価について」の改善のポイントとして評価規準と評価方法との整合性や「課題の設定」や「情報の収集」における具体的な評価方法を示す必要があることが分かった。

本研究において御指導・御助言をいただいた広島大学大学院教育学研究科朝倉淳教授をはじめ、研究協力校である東広島市立吉川小学校、府中町立府中中央小学校、三次市立三和小学校、尾道市立美木中学校、三次市立三和中学校の職員の皆様、そして、広島県各教育事務所・支所、各市町教育委員会の皆様、広島市教育委員会、福山市教育委員会の皆様に心から感謝申し上げます。

## 【引用文献】

- 1) 文部科学省(平成20年):『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社 p. 4  
文部科学省(平成20年):『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』教育出版 p. 4
- 2) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(平成22年3月):『児童生徒の学習評価の在り方について(報告)』[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm)
- 3) 文部科学省初等中等教育局長通知(平成22年5月):『小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について』[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/attach/1292901.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1292901.htm)
- 4) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(平成22年3月):『児童生徒の学習評価の在り方について(報告)』[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm)

## 【参考文献】

- 文部科学省国立教育政策研究所(平成25年):『平成25年度全国学力・学習状況調査報告書クロス集計』  
文部科学省(平成22年):『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)』教育出版  
文部科学省(平成22年):『今、求められる力を高める総合的

な学習の時間の展開(中学校編)』教育図書  
文部科学省(平成25年):『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(高等学校編)』教育出版  
文部科学省(平成22年):『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』教育出版  
文部科学省(平成23年):『言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】』教育出版  
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(平成23年):『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料』【小学校 総合的な学習の時間】教育出版  
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(平成23年):『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料』【中学校 総合的な学習の時間】教育出版  
文部科学省(平成18年3月):『総合的な学習の時間実施状況調査調査結果の概要(抄)』  
広島県立教育センター(平成13年):『総合的な学習の教育効果を高める「評価」に関する研究—小中連携教育の視点によって—』  
京都市総合教育センター進藤弓枝(平成24年):『探究的な学習を充実させる総合的な学習の時間の単元展開—学年の系統に応じた内容と言語活動の充実—』  
和歌山県教育センター岡谷憲子(平成15年):『小・中学校における「総合的な学習の時間」の調査研究について—子どもや教職員はどのように変わろうとしているか—』  
桃山学院大学総合研究所紀要第30巻第2号大野順(2004):『総合的な学習の時間』の実態調査を踏まえて—大阪府和泉市公立小学校・中学校における「総合的な学習の時間」の実施状況についての考察—』  
鹿毛雅治(2013):『学習意欲の理論動機づけの教育心理学』金子書房  
田村学・黒上晴夫(2013):『教育技術 MOOK 考えるってこういうことか!「思考ツール」の授業』小学館  
田村学・黒上晴夫(2014):『こうすれば考える力が付く!中学校思考ツール』小学館  
関西大学初等部(2013):『思考ツール』さくら社  
関西大学初等部(2014):『思考ツールを使う授業』さくら社

小学校 単元改善シート 学習課題 (例)「地域や学校の特色に応じた課題」(改訂版)

探究的な学習における状況		改善のポイント															
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の実態把握について、確認しましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 年間指導計画の確認及び前学年の担任からの聞き取りによりこれまでの学習内容を把握する。</li> <li>□ ウェビングやアンケート調査等により、児童の興味・関心、学習スキルについて把握する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画が、児童の実態に応じて作成されているか確認しましょう。</li> </ul>															
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間指導計画、単元計画、評価計画等について、確認しましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 【単元名】(例)「つなげよう!! 広げよう!! 私たちの○○」</li> <li>□ 【単元目標】(例) 地域の特色やよさにふれ、地域への愛着や誇り、将来への夢を育む。</li> <li>□ 【各学校で定める育てようとする資質や能力及び態度】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)・「課題設定力」日常生活や社会における事象から、自分で取り組むべき課題を見付ける。                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題解決力」情報収集した事柄を整理・分析し、まとめ・表現する力。</li> <li>・「コミュニケーション力」他者と協力しながら主体的に取り組む態度。</li> <li>・「自己の生き方」自分でできることや学ぶことについて考え、自分の生き方につなげる力。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>□ 【各学校で定める評価の観点、評価規準、評価方法】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)                                     <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>評価の観点</td> <td>課題設定力</td> <td>問題解決力</td> <td>コミュニケーション力</td> <td>自己の生き方</td> </tr> <tr> <td>評価規準</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価方法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </li> </ul> </li> </ul> </li> <li>□ 【年間指導計画における教科の内容と学習スキルの関連】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)・国語(内容)目的に応じて情報を選択し、文章構成を考え、新聞づくりを行う。(学習スキル)カードを用いて情報を収集し、KJ法的手法を用いて、集めた情報を分類する。</li> </ul> </li> <li>□ 【教材についての共通理解】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ウェビング等を活用し、教材の広がりや対象、学習活動、教科との関連(内容及び学習スキル)について、確認する。</li> </ul> </li> </ul>	評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方	評価規準					評価方法					<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を通して、育てようとする資質や能力及び態度について定め、確認しましょう。</li> <li>・児童の目指す姿を想定し、いつ、どのような方法で評価するか確認し、共有しましょう。(GTや保護者とも共有)。</li> <li>・教科で学ぶ内容と学習スキルについて関連させましょう。</li> <li>・思考ツールを活用し、教材について共通理解を図りましょう。</li> </ul>
評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方													
評価規準																	
評価方法																	
探究的な学習の指導について		改善のポイント															
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の実態に応じた手立てを工夫しましょう。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>□ 児童が学習内容についての知識をもっていない場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 複数の体験活動を通して、多くの情報を収集し、体験を比較させて考えさせる。</li> <li>② ウェビングを活用 <b>個人⇒グループ</b> 個人で収集した情報を取り出す。共有。</li> <li>③ KJ法的手法を活用 <b>グループ</b> 情報を分類整理し、情報を把握する。</li> <li>④ 問題の序列化を行う。個人又はグループ理由付けしながら課題を設定する。</li> </ol> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>□ 児童が学習内容についての知識をもっている場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。</li> <li>② グラフなどの統計や写真等を提示し、児童の認知基準とのずれを生かす。</li> <li>③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。</li> <li>④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。</li> </ol> </div> </div>	<p>評価について</p> <p>◎評価の観点 ○評価規準 ☆評価方法</p> <p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 行動観察</li> <li>□ 制作物 (例: ウェビングやKJ法的手法的なワークシート)</li> <li>□ ポートフォリオ</li> <li>□ 自己評価 (例: 振り返りカード)</li> <li>□ 相互評価</li> <li>□ 外部評価 (例: 外部講師、保護者等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じて、多様な思考ツールを活用し、課題を設定できるように手立てを工夫しましょう。</li> <li>・育てようとする資質や能力及び態度に応じた評価の観点、評価規準、評価方法を設定し、児童の学びについて見取りましょう。</li> </ul>														
情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題や目的に応じて、相手意識をもって、多様な情報収集の方法を選択しましょう。</li> </ul> <p>(例)</p> <p>□ アンケート □ フリップボード □ インタビュー □ 手紙 □ 電話</p> <p>□ メール □ 図書資料 □ インターネット □ 実験・観察</p> <p>「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)」P. 24~30 参照</p>	<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 行動観察</li> <li>□ 制作物</li> <li>□ ポートフォリオ</li> <li>□ 自己評価 (例: 振り返りカード)</li> <li>□ 相互評価</li> <li>□ 外部評価 (例: 外部講師、保護者等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の図書館や各官庁、各県市町の施設を積極的に活用しましょう。</li> <li>・ICTを効果的に活用し、遠隔地からの情報収集も工夫しましょう。</li> <li>・育てようとする資質や能力及び態度に応じた評価の観点、評価規準、評価方法を設定し、児童の学びについて見取りましょう。</li> </ul>														
整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的に応じた方法を選択し、比較・分類・序列化・関連付けなど手立てを考えましょう。</li> </ul> <p>(例)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□ ベン図(共通点、相違点)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□ 座標軸の入ったワークシート</div> </div> <p>□ カード □ グラフ □ マップ □ 図 □ メリット・デメリット □ ビフォー・アフター</p>	<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 行動観察</li> <li>□ 制作物 (例: ベン図、座標軸の入ったワークシート)</li> <li>□ ポートフォリオ</li> <li>□ 自己評価 (例: 振り返りカード)</li> <li>□ 相互評価</li> <li>□ 外部評価 (例: 外部講師、保護者等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、思考に沿った思考ツールを組み合わせて活用しましょう。</li> <li>・育てようとする資質や能力及び態度に応じた評価の観点、評価規準、評価方法を設定し、児童の学びについて見取りましょう。</li> </ul>														
まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相手意識や目的意識を明確にし、より効果的な方法でまとめ・表現する方法を考えましょう。</li> </ul> <p>(例)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□ 振り返りカード</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□ 自己評価カード</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□ 新聞 □ レポート □ 報告会 □ プレゼンテーション</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">□ パンフレット □ ポスター</div> </div> <p>□ パネルディスカッション □ シンポジウム</p> <p>「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)」P. 38~44 参照</p>	<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 行動観察</li> <li>□ 制作物</li> <li>□ ポートフォリオ</li> <li>□ 自己評価 (例: 振り返りカード)</li> <li>□ 相互評価</li> <li>□ 外部評価 (例: 外部講師、保護者等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容や学習スキルなど教科との関連を生かし、相手や目的に応じて、多様な表現方法を指導しましょう。</li> <li>・育てようとする資質や能力及び態度に応じた評価の観点、評価規準、評価方法を設定し、児童の学びについて見取りましょう。</li> </ul>														

中学校 単元改善シート 学習課題 (例)「職業や自己の将来にかかわる課題」(改訂版)

探究的な学習における状況		改善のポイント																									
実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の実態把握について、確認しましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 小学校における学習(キャリア教育関連)について、年間計画や聞き取りにより学習内容を把握する。</li> <li>□ 中学校の年間指導計画の確認及び前学年の担任からの聞き取りによりこれまでの学習内容を把握する。</li> <li>□ ウェビングやアンケート調査等により、生徒の興味・関心、学習スキルについて把握する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間指導計画が、生徒の実態に応じて作成されているか確認しましょう。</li> </ul>																									
計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間指導計画、単元計画、評価計画等について、確認しましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 【単元名】(例) 第1学年「仕事について考えよう」第2・3学年「自分の将来について考えよう」</li> <li>□ 【単元目標】(例) 職場体験を通して、職業や自分に対する理解を深め、自己の将来の生き方を考える。</li> <li>□ 【各学校で定める育てようとする資質や能力及び態度】                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)・「課題設定力」日常生活や社会における事象から、自分で取り組むべき課題を見付ける。                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題解決力」情報収集した事柄を整理・分析し、まとめ・表現する力。</li> <li>・「コミュニケーション力」他者と協力しながら主体的に取り組む態度。</li> <li>・「自己の生き方」自分でできることや学ぶことについて考え、自分の生き方につなげる力。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>□ 【各学校で定める評価の観点、評価規準、評価方法】                             <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>評価の観点</td> <td>課題設定力</td> <td>問題解決力</td> <td>コミュニケーション力</td> <td>自己の生き方</td> </tr> <tr> <td>評価規準</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価の方法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </li> </ul> </li> <li>□ 【年間指導計画における教科の内容と学習スキルの関連】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)・国語(内容)日常生活や社会生活から課題を決め、材料を集め分類・整理し、構成を工夫し、考えをまとめる。(学習スキル)カードを用いて、情報を収集する。KJ法的手法を用いて、集めた情報を分類する。</li> </ul> </li> <li>□ 【教材についての共通理解】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブページ等を活用し、教材の広がりや対象、学習活動、教科との関連(内容及び学習スキル)について、確認する。</li> </ul> </li> </ul>	評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方	評価規準					評価の方法					<ul style="list-style-type: none"> <li>● 単元の学習を通して、育てようとする資質や能力及び態度について定め、確認しましょう。</li> <li>● 生徒の目指す姿を想定し、いつ、どのような方法で評価するか確認し、共有しましょう(GTや保護者とも共有)。</li> <li>● 教科で学ぶ内容と学習スキルについて関連させましょう。</li> <li>● 思考ツールを活用し、教材について共通理解を図りましょう。</li> </ul>										
評価の観点	課題設定力	問題解決力	コミュニケーション力	自己の生き方																							
評価規準																											
評価の方法																											
探究的な学習の指導について		改善のポイント																									
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の実態に応じた手立てを工夫しましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)                             <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっていない場合</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① SWOT分析を通して、自分の強みや弱みを自覚し、良いところや改善が必要なることを考える。</li> <li>② フレインライティングを通して、他者から見た自分の良さについて自覚する。</li> <li>③ 身近な人からの聞き取りや仕事調べなど調査活動を行う。</li> <li>④ KJ法的手法を活用し、情報を分類・整理し、情報の共有化を図り、課題を設定する。[グループ(協同学習)]</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっている場合</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。</li> <li>② グラフなどの統計や写真等を提示し、生徒の認知基準とのずれを生かす。</li> <li>③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。</li> <li>④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。</li> </ol> </td> </tr> </table> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっていない場合</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① SWOT分析を通して、自分の強みや弱みを自覚し、良いところや改善が必要なることを考える。</li> <li>② フレインライティングを通して、他者から見た自分の良さについて自覚する。</li> <li>③ 身近な人からの聞き取りや仕事調べなど調査活動を行う。</li> <li>④ KJ法的手法を活用し、情報を分類・整理し、情報の共有化を図り、課題を設定する。[グループ(協同学習)]</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっている場合</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。</li> <li>② グラフなどの統計や写真等を提示し、生徒の認知基準とのずれを生かす。</li> <li>③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。</li> <li>④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。</li> </ol>	<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□行動観察</li> <li>□制作物(例:ウェブページやKJ法的手法ワークシート)</li> <li>□ポートフォリオ</li> <li>□自己評価(例:振り返りカード)</li> <li>□相互評価</li> <li>□外部評価(例:外部講師、保護者等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の実態に応じて、多様な思考ツールを活用し、課題を設定できるような手立てを工夫しましょう。</li> <li>● 育てようとする資質や能力及び態度に応じた評価の観点、評価規準、評価方法を設定し、生徒の学びについて見取りましょう。</li> </ul>																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっていない場合</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① SWOT分析を通して、自分の強みや弱みを自覚し、良いところや改善が必要なることを考える。</li> <li>② フレインライティングを通して、他者から見た自分の良さについて自覚する。</li> <li>③ 身近な人からの聞き取りや仕事調べなど調査活動を行う。</li> <li>④ KJ法的手法を活用し、情報を分類・整理し、情報の共有化を図り、課題を設定する。[グループ(協同学習)]</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒が学習内容についての知識をもっている場合</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。</li> <li>② グラフなどの統計や写真等を提示し、生徒の認知基準とのずれを生かす。</li> <li>③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。</li> <li>④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。</li> </ol>																										
情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題や目的に応じて、相手意識をもって、多様な情報収集の方法を選択しましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)                             <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>□アンケート</td> <td>□フリップボード</td> <td>□インタビュー</td> <td>□手紙</td> <td>□電話</td> </tr> <tr> <td>□メール</td> <td>□図書資料</td> <td>□インターネット</td> <td>□実験・観察</td> <td></td> </tr> </table> </li> </ul> </li> </ul> <p>「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)」P. 24~30 参照</p>	□アンケート	□フリップボード	□インタビュー	□手紙	□電話	□メール	□図書資料	□インターネット	□実験・観察		<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□行動観察</li> <li>□制作物</li> <li>□ポートフォリオ</li> <li>□自己評価(例:振り返りカード)</li> <li>□相互評価</li> <li>□外部評価(例:外部講師、保護者等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共の図書館や各官庁、各県市町の施設を積極的に活用しましょう。</li> <li>● ICTを効果的に活用し、遠隔地からの情報収集も工夫しましょう。</li> <li>● 育てようとする資質や能力及び態度に応じた評価の観点、評価規準、評価方法を設定し、生徒の学びについて見取りましょう。</li> </ul>														
□アンケート	□フリップボード	□インタビュー	□手紙	□電話																							
□メール	□図書資料	□インターネット	□実験・観察																								
整理分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的に応じた方法を選択し、比較・分類・序列化・関連付けなど手立てを考えましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)                             <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ ビフォー・アフター</li> </ul> <p>学習前の自分と、体験活動や調査活動を通して情報を収集した後の自分について比較することにより、自己の成長を自覚させる。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>ビフォー</td> <td>アフター</td> </tr> <tr> <td>仕事への考え</td> <td>仕事への考え</td> </tr> <tr> <td>○○○○・……</td> <td>○○○○・……</td> </tr> <tr> <td>自己の適性</td> <td>自己の適性</td> </tr> <tr> <td>○○○○・……</td> <td>○○○○・……</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ メリット・デメリット</li> </ul> <p>自分の将来について、多様な情報や自己の適性を基に比較しながら考えを深める。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">○○○○</td> </tr> <tr> <td>メリット</td> <td>デメリット</td> </tr> <tr> <td>仕事の特徴○○○</td> <td>仕事の特徴○○○</td> </tr> <tr> <td>○・……</td> <td>○・……</td> </tr> <tr> <td>自己の適性○○○</td> <td>自己の適性○○○</td> </tr> <tr> <td>○・……</td> <td>○・……</td> </tr> </table> </td> </tr> </table> </li> </ul> </li> </ul> <p>□カード □グラフ □マップ □図 □ペン図 □座標軸の入ったワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ビフォー・アフター</li> </ul> <p>学習前の自分と、体験活動や調査活動を通して情報を収集した後の自分について比較することにより、自己の成長を自覚させる。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>ビフォー</td> <td>アフター</td> </tr> <tr> <td>仕事への考え</td> <td>仕事への考え</td> </tr> <tr> <td>○○○○・……</td> <td>○○○○・……</td> </tr> <tr> <td>自己の適性</td> <td>自己の適性</td> </tr> <tr> <td>○○○○・……</td> <td>○○○○・……</td> </tr> </table>	ビフォー	アフター	仕事への考え	仕事への考え	○○○○・……	○○○○・……	自己の適性	自己の適性	○○○○・……	○○○○・……	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ メリット・デメリット</li> </ul> <p>自分の将来について、多様な情報や自己の適性を基に比較しながら考えを深める。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">○○○○</td> </tr> <tr> <td>メリット</td> <td>デメリット</td> </tr> <tr> <td>仕事の特徴○○○</td> <td>仕事の特徴○○○</td> </tr> <tr> <td>○・……</td> <td>○・……</td> </tr> <tr> <td>自己の適性○○○</td> <td>自己の適性○○○</td> </tr> <tr> <td>○・……</td> <td>○・……</td> </tr> </table>	○○○○		メリット	デメリット	仕事の特徴○○○	仕事の特徴○○○	○・……	○・……	自己の適性○○○	自己の適性○○○	○・……	○・……	<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□行動観察</li> <li>□制作物(例:ビフォー・アフター、メリット・デメリットの入ったワークシート)</li> <li>□ポートフォリオ</li> <li>□自己評価(例:振り返りカード)</li> <li>□相互評価</li> <li>□外部評価(例:外部講師、保護者等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的に応じ、思考に沿った思考ツールを組み合わせて活用しましょう。</li> <li>● 育てようとする資質や能力及び態度に応じた評価の観点、評価規準、評価方法を設定し、生徒の学びについて見取りましょう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ビフォー・アフター</li> </ul> <p>学習前の自分と、体験活動や調査活動を通して情報を収集した後の自分について比較することにより、自己の成長を自覚させる。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>ビフォー</td> <td>アフター</td> </tr> <tr> <td>仕事への考え</td> <td>仕事への考え</td> </tr> <tr> <td>○○○○・……</td> <td>○○○○・……</td> </tr> <tr> <td>自己の適性</td> <td>自己の適性</td> </tr> <tr> <td>○○○○・……</td> <td>○○○○・……</td> </tr> </table>	ビフォー	アフター	仕事への考え	仕事への考え	○○○○・……	○○○○・……	自己の適性	自己の適性	○○○○・……	○○○○・……	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ メリット・デメリット</li> </ul> <p>自分の将来について、多様な情報や自己の適性を基に比較しながら考えを深める。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">○○○○</td> </tr> <tr> <td>メリット</td> <td>デメリット</td> </tr> <tr> <td>仕事の特徴○○○</td> <td>仕事の特徴○○○</td> </tr> <tr> <td>○・……</td> <td>○・……</td> </tr> <tr> <td>自己の適性○○○</td> <td>自己の適性○○○</td> </tr> <tr> <td>○・……</td> <td>○・……</td> </tr> </table>	○○○○		メリット	デメリット	仕事の特徴○○○	仕事の特徴○○○	○・……	○・……	自己の適性○○○	自己の適性○○○	○・……	○・……				
ビフォー	アフター																										
仕事への考え	仕事への考え																										
○○○○・……	○○○○・……																										
自己の適性	自己の適性																										
○○○○・……	○○○○・……																										
○○○○																											
メリット	デメリット																										
仕事の特徴○○○	仕事の特徴○○○																										
○・……	○・……																										
自己の適性○○○	自己の適性○○○																										
○・……	○・……																										
考える・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相手意識や目的意識を明確にし、より効果的な方法でまとめ・表現する方法を考えましょう。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(例)                             <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□振り返りカード</li> <li>□自己評価カード</li> </ul> </td> <td style="width: 33%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□新聞</li> <li>□パンフレット</li> <li>□ポスター</li> </ul> </td> <td style="width: 33%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□報告会</li> <li>□プレゼンテーション</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ パネルディスカッション</li> <li>□ シンポジウム</li> </ul> </td> </tr> </table> </li> </ul> </li> </ul> <p>「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)」P. 39~44 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□振り返りカード</li> <li>□自己評価カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新聞</li> <li>□パンフレット</li> <li>□ポスター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□報告会</li> <li>□プレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ パネルディスカッション</li> <li>□ シンポジウム</li> </ul>			<p>◎評価の観点 ( )</p> <p>○評価規準 ( )</p> <p>☆評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□行動観察</li> <li>□制作物</li> <li>□ポートフォリオ</li> <li>□自己評価(例:振り返りカード)</li> <li>□相互評価</li> <li>□外部評価(例:外部講師、保護者等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内容や学習スキルなど教科との関連を生かし、相手や目的に応じて、多様な表現方法を指導しましょう。</li> <li>● 育てようとする資質や能力及び態度に応じた評価の観点、評価規準、評価方法を設定し、生徒の学びについて見取りましょう。</li> </ul>																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>□振り返りカード</li> <li>□自己評価カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新聞</li> <li>□パンフレット</li> <li>□ポスター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□報告会</li> <li>□プレゼンテーション</li> </ul>																									
<ul style="list-style-type: none"> <li>□ パネルディスカッション</li> <li>□ シンポジウム</li> </ul>																											